伊久間原

―縄文早・中期，弥生後期の集落を中心とした―

埋蔵文化財発掘調査報告書

1978.3

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

伊久間原

— 縄文早・中期，弥生後期の集落を中心とした —

埋蔵文化財発掘調査報告書

1978.3

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

序

県営畑地帯総合土地改良事業として、今回、喬木村伊久間下原、ハマイバ地籍について農業の近代化による散水施設工事が行なわれることになりましたが、かねてよりこの地帯には住居址等埋蔵文化財の存在が確認されていましたので、文化財保護の見地から工事実施に先だち喬木村教育委員会に委託して遺跡の発掘調査を行ったものであります。

今回の調査にあたっては、果樹園、桑園地帯であるため、調査にも困難をきたしたにもかかわらず発掘面積も当初を上まわる2,700㎡に及び、予想以上に多くの成果が得られ、当下伊那地方における代表的な遺跡であることが確認出来ましたことは地元耕作者を初め私共にとっても非常に古代にたいするロマンと興味を深めるものであります。

報告書が出版されるにあたり、改めて文化財保護、記録保存の意義をかみしめるとともに、佐藤調査団長はじめこの調査に当られた関係各位のご努力に厚くお礼申し上げる次第であります。

昭和53年 3 月

南信土地改良事務所下伊那支所長

八　幡　高　吉

例　　言

1. 本書は昭和52年、昭和53年度に施工される畑潅水工事に先立ち遺跡の性格を知るため調査可能の畑3,051㎡の発掘調査を行なった伊久間原遺跡の報告書である。

2. 本書は報告書作成の期限があり、このため調査結果については充分な検討・研究がなされず、資料提供と問題提示の報告となっている。

3. 昭和53年度施工予定の畑潅水工事による立入調査によって遺跡の規模を知ることのできる予想のもとに、本書は遺跡の一部分の資料提示に終わるものである。

4. 本書の編集及び執筆は佐藤が担当した。

5. 写真は佐藤が、遺構実測図作成は佐藤・吉沢・牧内佳子が、遺物の作図は佐藤、遺構・遺物の製図は佐藤・田口・中平一夫が分担した。

6. 遺構実測図のうちピット内、または横に記してある数字は床面からの深さをcmで、遺物出土状況図では床面からの高さをcmで（床面出土は数字を略してもいる）あらわし、縮尺は図示してある。

7. 遺物は昭和53年度建設予定の喬木村歴史民俗資料館に保管されることになっている。

目　　次

序 …… 1
例　言 …… 2
目　次 …… 3
遺物図目次 …… 4

Ⅰ　環　境 …… 5
　1. 自然的環境 …… 5
　2. 歴史的環境 …… 8
Ⅱ　発掘調査経過 …… 10
Ⅲ　発掘調査結果 …… 14
（Ⅰ）伊久間原面の遺構・遺物 …… 14
　1. 住　居　址 …… 15
　(1) 縄文早期末 …… 15
　(2) 縄文中期中葉末 …… 18
　(3) 縄文中期後半 …… 21
　(4) 縄文晩期 …… 28
　(5) 弥生後期 …… 29
　2. 円形周溝墓 …… 32
　3. 土　　壙 …… 33
　4. 伊久間原遺跡伊久間原面出土石器一覧表（表２） …… 34
（Ⅱ）伊久間原下原面の遺構・遺物 …… 50
　1. 住　居　址 …… 51
　(1) 縄文中期 …… 51
　(2) 縄文後期 …… 52
　(3) 弥生後期 …… 54
　(4) 中　　世 …… 55
　2. 柱　列　址 …… 56
　3. 方形周溝墓 …… 57
　4. 土　　壙 …… 57
Ⅳ　ま　と　め …… 58
調　査　組　織 …… 61
遺　物　図 …… 62
図版　Ⅰ 遺跡　Ⅱ 遺構　Ⅲ 遺物　Ⅳ 発掘スナップ
おわりに

遺　物　図　目　次

図36　伊久間原19号住居址出土遺物Ⅰ（1：3）…… 62
図37　伊久間原19号住居址出土遺物Ⅱ（1：3）…… 63
図38　伊久間原22号住居址出土遺物Ⅰ（1：3）…… 63
図39　伊久間原22号住居址出土遺物Ⅱ（1：3）…… 64
図40　伊久間原20号住居址出土遺物　（1：4）…… 65
図41　伊久間原23号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 66
図42　伊久間原23号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 67
図43　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 67
図44　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 68
図45　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）…… 69
図46　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 70
図47　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 71
図48　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）…… 72
図49　伊久間原14号住居址出土遺物　（1：4）…… 72
図50　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 73
図51　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 74
図52　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）…… 75
図53　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅳ（1：4）…… 76
図54　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅴ（1：4）…… 77
図55　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅵ（1：3）…… 78
図56　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅶ（1：4）…… 79
図57　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅷ（1：4）…… 80
図58　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 81
図59　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 82
図60　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）…… 83
図61　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅳ（1：4）…… 84
図62　伊久間原27号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）…… 85
図63　伊久間原27号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）…… 86
図64　伊久間原25号住居址出土遺物　（1：4）…… 87
図65　伊久間原29号住居址出土遺物　（1：4）…… 87
図66　伊久間原21号住居址出土遺物　（1：4）…… 88
図67　伊久間原16号・17号住居址出土遺物（1：4）…… 89
図68　伊久間原18号住居址出土遺物（1：4）…… 90
図69　伊久間原円形周溝墓Ⅰ、Ⅱ出土遺物（1：4）…… 91
図70　伊久間原土壙1・3・4・7・11・12、22号住居址上層出土遺物（1：4）…… 91
図71　伊久間原面出土土製品及び小型石器（1：3）…… 92
図72　伊久間原遺跡出土石皿・石棒等（1：6）…… 93
図73　伊久間原遺跡下原逆出土遺物（1：4）…… 94

I 環　境

1. 自然的環境

伊久間原遺跡は長野県下伊那郡喬木村伊久間原に所在する。

長野県飯田・下伊那地方は東に赤石山脈が連なり，西に木曽山脈が聳え，その中間を天竜川が南下してその両側に見事な段丘が発達している。天竜川の東岸一竜東地区は背後には赤石山脈の前面に中山性の伊那山脈が大西山（1741m），鬼面山（1889m），氏乗山（1818m），金森山（1702m）となって赤石山脈と並走している。伊那山脈の東面は急峻な断崖をなすが，西面は数列の断層による起伏をもちながら段丘面に達し，天竜川の西岸一竜西地区に比し山麓からのびる扇状地は狭小で段丘面の幅員も全般的には狭いが，豊丘村から喬木村にかけての段丘の発達は著しく，特に北から豊丘村の田村原，林原，伴野原，喬木村の城原，畑牟原，伊久間原，さらに飯田市下久堅の中尾，庚申原と続く伊那谷中位段丘面の幅は広く典型的な段丘地形を形成している。

遺跡の所在する伊久間原面は南北1250m，東西150～300m，標高487～498mの広い段丘面をなし，西は緩い段丘崖となって一段低位の下原面となる。南北450m，東西は南側で120m，北にいくに従い狭く，三角形の台地形をなし，標高469～470mる。ともに伊那谷第5段丘に位置づく。

北は高距70m余の急峻な浸蝕崖となり，崖下を小川川が西流し天竜川に注いでいる。西は伊久間原面で95m，下原面で75mの高距をもつ段丘崖となり，その崖下に伊久間部落が南北に細長く展開し，3～4mの比高差をもって天竜川氾濫原の水田地帯となり，伊久間原面と天竜川との高距は100m前後である。天竜川の氾濫低地をのぞみ，同位段丘面にある飯田市街地と相対している。南は境沢の深い浸蝕谷によって切られ，沢を距てて飯田市下久堅の中尾，庚申原と続くが，それ以南は小河川の浸蝕により段丘面は狭小となる。東は約60mの高距をもつ高位段丘の大原台地，さらに高位の伊那谷第1段丘の松山（610m）の残丘があって，その背後は九十九谷と呼ばれる深い浸蝕崖となっている。さらに伊那層よりなる丘陵が東にたかまって続き，この丘陵の東側に断層線谷により形成された集落富田，飯田市上久堅があり，その背後に伊那山脈の鬼面山，氏乗山，金森山が聳えている。

伊久間原の微地形をみると，平担な台地であるが，大原段丘崖下には崖錐堆積の緩傾斜があり，そこは果樹園地帯となっており，この崖錐堆積の端部と，伊久間原面は東にゆるく傾斜しており，その交わる線は雨水地帯をなし，南に向う小流域をなして境沢に合流している。境沢の谷頭浸蝕は南から北へと進み，深い谷を形成し，現在大原段丘面に上る南側道路のすぐ南にまで浸蝕はせまってきているが，人工的処置によって浸蝕を食い止めている一方，人工の加わらない面の観察によれば，下部はミソベタの堅い層，その上に礫層がのり，その上は堅い三紀ずらをした粘土層があって，この堅い層が浸蝕を食い止めているとみられる。粘土層の上には砂層がのっており古い時期の流路ともみられる。今次調査した伊久間原Ⅰ調査区のローム層は粘土を含み極めて堅く，おそらく粘土の堆積の流れとロームの堆積が同時期に行われたものと推測される。このため縄文期遺構 硬土は堅く，調査には苦労した。

伊久間原遺跡は，谷頭浸蝕の終わる地点を中心にして台地の西側に，さらに下原面への緩い段丘崖の畑にも遺物の散布はみられ，下原面の北側にまで続いて集落が展開されたものと考えられる。伊久間原には蚕立，堀垣外，ホウゲン，館林，城ノ上，伊久間ハマイバ，下原等と遺跡は区分されているが，下原遺跡は一段低い段丘面にあって区別されるが，いずれも連続する遺跡であり，これを小字別

図1　伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡I

（1：50,000）

1. 伊久間原遺跡　2. 馬場平遺跡　3. 場牛原遺跡
4. 阿島遺跡　5. 城原遺跡　6. 伴野原遺跡
7. 林原遺跡　8. 林里遺跡　9. 田村原遺跡
10. 北原遺跡　11. 恒川遺跡　12. 寺所遺跡
13. 松尾南ノ原遺跡　14. 滑水遺跡　15. 大原遺跡

図1　伊久間原遺跡位置図及び周辺の遺跡Ⅱ（1：15,000）

に分けて遺跡を考えることのできぬ立地条件にあり，また，これをどこに境界を引くこともむずかしく，伊久間原遺跡として総称するが妥当と思われる。

2. 歴史的環境

伊久間原遺跡は昭和27年・29年度農道開発事業の際，縄文中期末住居址３，古墳時代後期住居址10が発見調査[1]され。また，弥生中・後の土器片多数が発見されており，旧石器とみられる石器をはじめ縄文時代，弥生・古墳時代の遺物が多く表採され，下原でも縄文中期から古墳時代にかけての遺物が表採されており，伊久間原遺跡として下伊那地方での主要遺跡として知られている。また崖端部には伊久間水防土塁が残っており，伊久間城跡もあったが，その跡はとどめていない。大原段丘崖下には赤坂古墳が残存している。

伊久間原には蓋立，堀垣外，ホウゲン，館林，城ノ上，伊久間ハマイバ，下原等の遺跡に区分されているが，下原は一段低い段丘面にあって区別してよいとみるが，いずれも連続する遺跡であり，これを小字別に分けて遺跡を考えることのできぬ立地条件にあり，また，どこに境界を引くこともむずかしい条件にある。

伊久間原周辺の遺跡を概観すると，同位段丘面では北にある帰牛原面の城本屋遺跡[2]では昭和51年度農業構造改善事業に伴う調査[3]では縄文中期末住居址45，弥生時代(3)，平安時代(1)の住居址４が発見され，1970年の農道用地調査で，中原では方形周溝基２基，十万山西裾で縄文中期（勝坂式）住居址２，弥生後期住居址１と弥生中期（阿島式）土壙１を発掘し，南原では1972年喬木第一小学校建設用地調査[4]で方形周溝基５基が発見されている。また，昭和52年度十万山西裾の農業構造改善事業に伴う調査[5]では縄文中期勝坂式終末期と弥生後期の集落が発見され，弥生後期の銅鏃１をはじめ良好な資料を得ており，帰牛原段丘面の広範な地域に縄文中期・弥生・平安時代にわたる集落が展開されていたものと推定されている。

帰牛原の北には城原遺跡があり，瓦土採集時に弥生後期の良好な資料を得ている。さらに北に続く豊丘村伴野原。林原，田村原遺跡は各期にわたる遺構，遺物が数次の調査で発見され，特に伴野原では1976年度の発掘調査で約90の住居址が発掘され，縄文前・中，弥生後期・平安時代にわたって調査され，縄文中期末の環状集落の存在が確かめられ，また，パン状炭化物の出土で注目を浴びている。

伊久間原の南には飯田市大中尾，中尾，天神と続く遺跡が並び，これらは未調査であるが縄文・弥生時代の遺物の散布がみられている。上位段丘の大原遺跡は昭和53年度調査予定となっており，打石斧，石鏃，土師器，須恵器の散布がみられ，北の段丘端部に蚊山古墳群があり，机山西裾には近世の富田窯址がある。

伊久間段丘崖下にある伊久間集落面では平安期の土師器の出土をみており，小川川に沿った低位段丘面には両平・田本平遺跡があり，縄文中期・弥生後期の遺物が発見されており，伊久間原北東段丘崖下にある堂ノ前では石剣の頭部が発見されており，家ノ下・平畑では弥生後期の遺物が表採されている。喬木中学校のある馬場平遺跡では，学校建設時に縄文前期末から古墳時代に至る各期の好資料が発見され，主要な遺跡の一つである。天竜川に面する低位段丘面では小川川の北。加々須川以南下段地域は里原から加々須川に至る冲積段丘面は未調査であるが，古い時期の土師器の坩，須恵器の高坏の出土をみており注目すべき遺跡である。一段上位にある現喬木公民館，保育園のある旧喬木第一小学校跡地では，縄文中期末・後期，弥生中期（寺所式・阿島式）の住居址，土壙の存在も確認され，この西端部にある郭１号墳は竜東地区唯一の前方後円墳であり，帰牛原段丘崖中腹にある郭５号墳は完型の朝顔花形円筒埴輪[9]の出土で知られている。

加々須川の北にある阿島遺跡[10]は弥生中期阿島式土器の標準遺跡である。それより北に続く豊丘村小園，伴野の沖積段丘面は未調査であるが注目すべき遺跡とみられ，虻川の北にある林里遺跡は弥生前期林里式土器の標準遺跡である。その天竜川の西岸に弥生中期北原式土器の標準遺跡北原遺跡があり，その南には飯田市座光寺恒川遺跡は弥生中期末恒川式土器の標準遺跡であり，現在進行中の国153号座光寺バイパス路線調査では，和銅開称（銀銭）の出土もみ，伊那郡衙址の推定もされ重要遺跡として注目を浴びている。飯田松川の南には弥生中期初頭の寺所式土器の標準遺跡寺所遺跡があり，その南の天竜川に沿う低位面に前期土師器の多量の出土をみた清水遺跡がある。

喬木村の富田地区を除く古墳は37基，そのうち16基は低位段丘面にあり，郭，里原，馬場平付近にあり，その他は中位，上位段丘上，段丘崖腹にある。現存する古墳は少なく，郭1号墳は前方部を欠き，小川塚穴古墳は封土は崩され石室を露出しており，里原1号墳，杉立古墳は墳丘を僅かに残す状態である。大原段丘端にある奴山古墳群は6基の古墳があったが1・3・4号墳が残存しており，古墳群の形態を残すものとして注目される。消滅古墳をふくめこれら古墳より形象埴輪，円筒埴輪，鏡，玉類，刀剣，金銅装馬具類の出土をみたものもあり，竜東地区の古墳文化の中心地であっただろうとも推測される。

富田地区の遺跡は表面採集によるが，小平・下塚・地神・市場等の縄文・弥生・古墳時代にかけての遺物が発見されており，古墳は8基[11]が数えられているが，市場古墳がその墳丘を残している。

注 (1)　大沢和夫・今村善興「長野県下伊那郡喬木村伊久間原住居址」信濃4，12
(2)　喬木村教委　「帰牛原城本屋」　1977
(3)　〃　「帰牛原」　1971
(4)　〃　「帰牛原南原遺跡」　1973
(5)　〃　「帰牛原十万山西堀地城」　発行予定
(6)　豊丘村教委　「伴野原遺跡」　近刊
(7)　〃　「田村原・林原遺跡」　1975
(8)　〃　「田村原遺跡」　1974
(9)　市村咸人　「下伊那史三巻」
(10)　宮沢恒之・佐藤　「喬木村阿島遺跡」　1967　長野県考古学会誌第4号
(11)　注(9)と同じ

Ⅱ　発掘調査経過

伊久間原一帯は近年果樹園地帯と桑園地帯と区画され，その計画がほぼ完成され，昭和53年度以後，畑潅水工事が実施されることになった。伊久間原遺跡は，かつて農道開発事業の際，縄文中期・古墳時代後期の住居址13が発見され，良好な資料の出土をみており，また各期にわたる遺物が表採され，下伊那地方の主要な遺跡として知られている。このため長野県南信土地改良事務所の委託により，喬木村教育委員会が受託し，畑潅水工事前に調査可能地域2700㎡について発掘調査を行うことになったものである。

下原面では伊久間から南側の道路を上って，北に向う農道を56m入った東側の畑 250 ㎡を下原Ⅱ調査区，道路分岐点から北 225 mから東に向う農道を15m入った南側の畑1000㎡を下原Ⅰ調査区とし，伊久間原面では，伊久間原への南の道路をとりきった交差点より南10mの東側の畑 900 ㎡を伊久間原Ⅰ調査区，交差点より北 220 mの東側の畑 550 ㎡をⅡ調査区とした。（図２）

発掘調査は昭和52年10月17日より53年２月18日までの間57日を現場調査にあてた。この間，畑作物の関係，帰牛原十万山西裾地域・飯田市三日市場宮ノ先遺跡の農業構造改善事業に伴う緊急発掘調査のため11月６日より，12月19日の間伊久間原の調査は中断している。

発　掘　調　査　日　誌

月　日	天　候	日　　誌
	下　原　面　調　査	
52年 10・17	くもり・晴	器材運搬・テント張り・草刈・Ⅰ調査区にグリッド設定。 午後よりグリッド調査にかかる。
18	晴	グリッド調査・土壙１号検出・石包丁・石鏃・弥生土器片をみる。
19	〃	↓ 東側２分の１を終わるが遺構なし。 竪穴遺構と柱列を検出する。
20	〃	↓　　↓ １号住居址となる。　柱列址１号となり調査　測量
21	〃	土壙１号をめぐる周溝を検出調査。 ブルトーザで盛土の排除と，下原Ⅱ調査区表土排除。
22	〃	方形周溝基Ⅰとなり，排土作業。柱列址Ⅱを検出，完掘，測量。
23	〃	日曜　休み
24	〃	方形周溝基Ⅰを掘り上げ，土壙１号は主体部となる。 ↓調査区Ⅱにグリッド設定。
25	〃	完掘測量　　２号住居址検出，土壙１・２号検出調査 全面に耕作による荒れがあり，遺構の破壊もみられる。 調査区Ⅱのグリッド調査。
26	〃	↓ 調査終わる。土壙１のみ，全面桑抜根で荒れている。 ３号・４号住居址を検出，完掘，測量

図２　伊久間原遺跡地形図と今次調査位置及び事前調査住居址図（１：７,５００）

月　日	天　候	日　　誌
10・27	晴	5号住居址を検出,……長芋栽培で荒れており，調査は不充分となる。
28	〃	↓ 完掘，測量。a～h－1～3列の排土作業。
29	〃	6号住居址を2号住居址の下層に検出調査。7号住居址検出するが長芋栽培で荒れている。
30	〃	日曜日　休み
31	〃	8号・9号・10号住居址検出するが，長芋栽培のため荒され，十分な調査不能。　6号・8号・9号住居址測量。　Ⅱ調査区の埋戻し作業。
11・1	晴，くもり	7号・10号住居址調査終了・測量，土壙3号を検出調査・測量
2	晴	下原全体測量をなし，調査を終わる。
3	晴	祝日　休み
4	雨	休み
5	くもり，晴	伊久間原面調査は作物の関係で不能。テント・器材徹収，帰牛原十万山西裾地域へ移動。
	伊久間原面調査	
12・19	晴，くもり	飯田市三日市場宮ノ先遺跡より器材運搬・テント位置の地ならし，草かり
20	くもり，寒い	テント設営，伊久間原Ⅰ調査区にグリッド設定，東側の低地部よりグリッド調査。1号（14号）・2号（15号）住居址を検出する。
21	晴	14住・15住のプラン検出・調査，覆土は堅く苦労する。土壙1号検出
22	〃	↓　　↓ 調　査　　調　査
23	〃，寒い	↓　　↓ 完掘・測量。土壙2号検出掘上げ測量。　　完掘測量
24	〃，〃	1～4列のグリッド調査。1・2住の埋ガメ断面調査，掘上げる。 朝，全面凍り，上どけで苦労する。
25	朝雨，くもり	午後より作業，a・b・c 1～3列に周溝検出，排土作業。
26	晴	円形周溝墓Ⅰを検出，完掘・測量。16住を検出。
27	晴，くもり	17住・18住・19住検出。円形周溝Ⅱを検出，掘上げ（3分の1）測量。 遺構全面にシートを覆い，新年にもちこす。 28日より1月7日まで休みとする。この間土器復原作業。
53年 1・8	くもり，雨	午後作業不能。19号住居址調査，覆土堅い。16・18住の中間部排土作業。
9	〃	↓　　↓ 調査（縄文早期末）　k～ℓ 1～3グリッド排土作業
10 ～ 16	雪	現場作業休み　土器復原整理
17	くもり時々晴 北風寒い	19住床面に達す。石器多し。　20住・21住検出 ↓　　↓
18	くもり，寒い	完掘測量，　　調査。　土壙3～6号検出掘上げ
		↓　↓

月　日	天　　候	日　　誌
1・19	晴，時々雪荒寒い	↓　↓ 16住・20住の調査　　完　掘
20	晴	↓　↓　↓ 掘上げ。掘上げ測量，18住の調査，22住検出。　測量。
21	くもり，雪荒	↓ 17住調査。（大部分は道路）　調査西２分の１に集石あり。
22	雪荒れ	日曜日　休み
23	晴	朝，雪の排除。　土壙８号～13号検出調査 Ⅱ調査区にグリッド設定
24	くもり後雨	↓ グリッド調査。　　掘上げ測量。16住・17住測量。 ↓ 炉址調査
25	晴，北風寒	調査　北側は桑抜根で荒れる。18住集石測量
26	くもり，寒い	↓　↓ 集石をはずし調査，完掘，測量
27	雪，晴	作業休み　　土器復原
28	くもり，寒い	調査　北側には遺物少なく，遺構とみるはなし。南側に遺物多し。23住・24住・25住を検出。　22住調査
29	くもり，晴	日曜日　休み
30	雪荒れ	作業休み　　土器復原
31	〃	〃　　〃
2・1	雪荒れ	22住調査―床面に至って遺物少なくなる。覆土断面調査。 23住・24住調査，土偶・土器片多し。　↓
2	晴，雪	調査 ― 遺物多し。26住検出　　完掘測量
3	雪荒れ	作業不可　　土器復原
4	〃	〃　　〃
5	くもり，雪荒	日曜日休み　　〃
6	くもり	23住ほぼ掘上げ，24住遺物多し。26住の調査にかかる。
7	晴，くもり	24住調査 ― 土器・土偶多し。26住調査 ― 遺物多し。27住検出。
8	晴，北風寒い	↓　↓ 掘上げ（２分の１用地外）覆土断面調査。調査 ― 覆土下 層の遺物少ない。
9	晴，くもり雨	↓　↓ 測量　　調査遺物少くなる。　27住の調査
10	雨	作業不能　　土器整理　↓　↓
11	くもり，晴	完掘・測量。　調査
12	雪	作業不能　　土器復原　↓
13	晴	前日の雪のため作業休み。　土器復原
14	くもり，晴	25住調査　・　29住検出調査　　28住検出　　調査完掘
15	晴，北風寒い	↓　↓　↓　↓ 掘上げ。　調査。　↓　調査，プランをつかむ。　測量

月・日	天　候	日　　誌
2・16	晴・寒い	23住の再調査 — 25住・29住・24住との切りあい関係をみる。完掘、測量。 28住調査、遺物多し。
17	晴	↓ 掘上げ測量。Ⅰ・Ⅱ調査区遺構、遺物の点検 下原地区Ⅱの埋戻し作業
18	〃	テント、器材徹収。現場作業終わる。
3・4	くもり・雨	地形、地質調査（矢亀先生の指導）
6	晴	1住～13住の位置測量。

現場調査後、埋戻し作業をなし、多量な出土遺物の整理、復元作業、遺構図の整理、遺物実測、製図、原稿執筆と予定外の時間を費やしてしまった。この間、遺構、遺物、地形、地質について各分野の方々の指導、助言、協力をえている。

Ⅲ　調　査　結　果

（1）伊久間原面の遺構・遺物

伊久間原遺跡伊久間原面で発掘調査した遺構は次のようである。（図3・4）

住居址　9
- 縄文早期末　2
- 縄文中期中葉末　3
- 縄文中期後半　7
- 縄文晩期　1
- 弥生後期　3

円形周溝墓　2

土　壙　13

Ⅰ調査区は耕作による荒れはみられなかったが、ローム層に粘土を含む土層のため、縄文期の遺構覆土は極めて堅く調査に苦労した。Ⅱ調査区は桑株抜根時に荒らされ、遺構の破壊も予想されるものもあった。北にいくに従い遺物量は少なく、遺構の存在も認められなかった。南にいくに従い黒土層は深くなり、遺構は密集してくる。またその保存状態も良好となる。

住居址番号は、かつて農道開発事業の際に発見調査された住居址13は、現在その位置が標示されているため、その番号を継続し、14号住居址より付すことにした。しかし、遺物は整理時点では1号住居址より付したため、1号住居址出土となっているのは14号住居址出土となっていく。

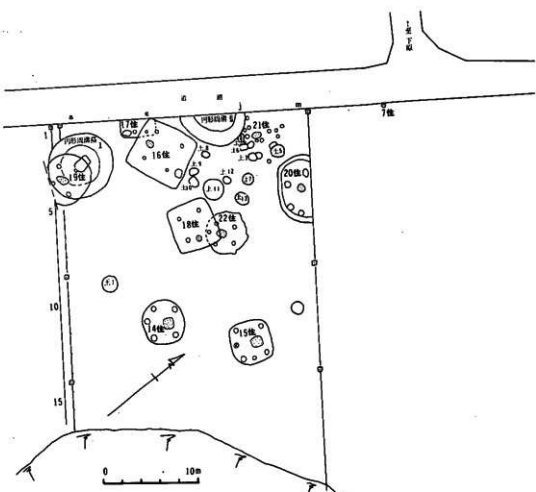


図3　伊久間原面Ⅰ調査区遺構図

1. 住居址

(1) 縄文早期末

伊久間原19号住居址（図5）

Ⅰ調査区の南西端部にあり、円形周溝墓Ⅰの下層に発見された。南の一部は用地外となる。径東西5.1mの円形をなすが、東側の一部は弧をもっていない。ローム層に35～40cm掘りこむ竪穴住居址である。床は堅く、主柱穴は4こ、比較的整った配置にあり、炉址は中央より南に寄ってあり、115×70cmの楕円形の浅い掘り凹みで、内部に拳大から人頭大の石10数個がはいり、全面に焼土をもつ。南側の未調査部は不明であるが、壁に沿って周溝がめぐらされている。覆土は上層より木炭を含み、黒土にロームと粘土混りの土層のため極めて堅く、移植ゴテの通らない程であった。

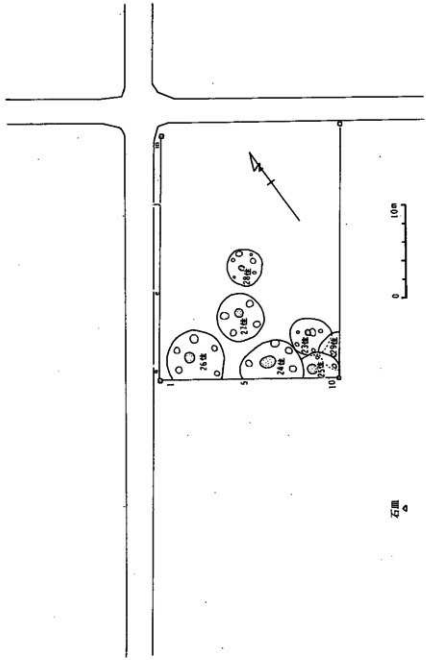


図4　伊久間原面Ⅱ調査区遺構図

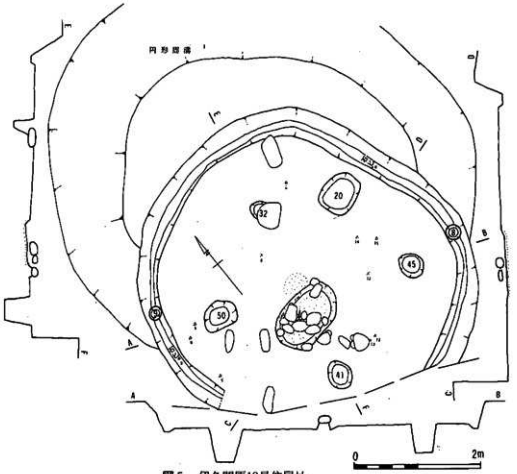


図5　伊久間原19号住居址

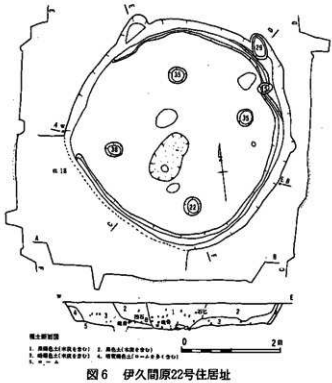


図6　伊久間原22号住居址

遺物（図36・37）　遺物は覆土上層より床面に至って出土をみている。土器（図36）は主体となるのは細線文指痕薄手土器で木島Ⅰ式に比定されるものであり、茅山式土器を伴出している。薄手土器は器壁は2～3㎜と薄いものが主で、底部は尖底の深鉢である。粘土のつなぎ目を指圧痕が連続する。細線文をもつ土器が一般的で、口唇部には刻目（爪形状列点文または二条の押引文）が施され、胴上半部に刻目を回らすものと、突帯を回らすものとがみられる。無文に1があり、指圧痕が著しい。11の茅山式土器は大型で内面に条痕が施されている。

石器（図37）は多く、礫器、石匙、スクレーパー、石鏃、ポイント、石錐、剥片石器、敲打器がある。

伊久間原22号住居址（図６）

Ｉ調査区のほぼ中央部にあり、18号住居址の東側の一部下層にかかって発見された。南西側は18号住居址で壁は切られているが、径南北で4.7ｍ、東西で4.5ｍの円形、ローム層に35～40cmの深さに掘りこむ竪穴住居址である。北から東の壁の３か所に瘤状の突出部をもつ。床面は極めて堅く、主柱穴は４こ、その他東側の突出部と周溝内に浅い柱穴がみられる。壁に沿って西側を除き周溝がめぐらされている。覆土は断面図にみるように木炭を含み、黒土にロームと粘土を含む土層のため、極めて堅く調査は苦労した。

遺物（図38・39）は多く覆土上層から床面にかけて出土し、特に炉址を中心に多くみられる。

土器（図38）には無文の厚手土器、細線文指痕薄手土器と、これよりやや厚味をます爪形文をもつ３群がみられ、尖底の深鉢とみられる。１は、口径21cm、高さ18cmの尖底土器で無文、胴下半部に段をもって底部に斜行して尖底をなしている。10は木島Ｉ式にみる波状口縁をなし、口唇部より縦の隆帯を下すものであり、薄手土器群は19号住居址出土と同系列のものである。19・25・32は入海式に比定されるものとみられる。

石器（図39・72の12）は、量、器種とも多く、石鏃は30こをこえ、石匙、スクレーパー、剥片石器、石錐、磨石、凹石、敲打器、台石等がある。凹石は４この出土をみ、片面にのみ凹が付せられていることに特色がみられる。

（２）縄文中期中葉末

伊久間原20号住居址（図７）

Ｉ調査区の北に２分の１は用地外となって発見された。東西径5.7ｍの円形をなし、ローム層に掘りこむ竪穴住居址である。二重に壁をもち、外周壁と内周壁との差は15cm前後、内周溝と床面との差は西壁は高く15cm、南・東壁は５～８ｍとなり、これが二重構造をなす住居址か、建増・建替の住居址か

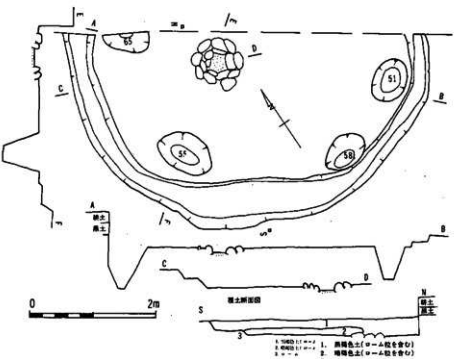


図７　伊久間原20号住居址

については覆土は極めて堅かったため判別は困難であった。床面は堅く、柱穴は４こ発見されているが、その配置からみて主柱穴は６ことみられる。炉址は中央より西に片寄ってあり、径75cmの円形に二重に礫で囲む石囲炉で整った形をなし、内部の焼土は顕著であった。

遺物（図40）は比較的少なく、床面出土土器（５～12）は勝坂式の終末段階から加曽利Ｅ式の移行期である。また、覆土出土の口縁部に細い粘土紐の貼布で飾ざるもの、４の角状の口縁突起、１のキャリパー形の深鉢は次期の加曽利Ｅ式への移行を示すものとみられる。13の櫛形文があり、覆土上層出土の14～19はやや古い一連の土器とみられる。

石器には打石斧、横刃形石器、石錘、不定形石器、磨石、砥石等がある。

伊久間原23号住居址（図８）

Ⅱ調査区の南東端近く、Ｃ８グリッドに発見され、南西の一部は24号址に、南の一部は25号址に、東の一部は29号址に切られている。東西径4.1ｍの円形をなし、西側で20cm、東側で35cm前後の深さにローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、主柱穴は６ことみられる。炉址は中央より北に片寄ってあり、径50cmの円形の石囲炉である。その東に接して径80cm、深さ45cmの円形の直に落ちるピットがあり、

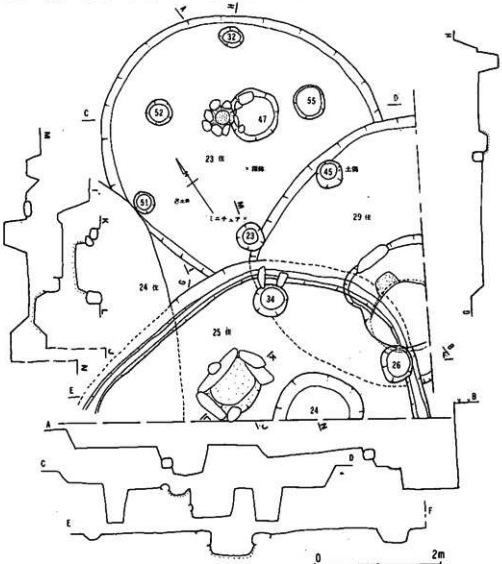


図８．伊久間原23号、25号、29号住居址

炉に接した側には石が詰められ、灰溜とみられる。

遺物は多く、土器（図41・42）はキャリパー形深鉢が主体をなし、文様は口縁横帯文で、細い粘土紐の貼布による直線、曲線の結合による隆起線文によって飾られ、5・6にみるような幾何学的模様を構成しているものがある。角状突起の把手をもつ3・8があり、粘土紐が底部まで貼布されるものに21があるが、胴下部は無文が多く、櫛形文をもつ5は櫛形文よりさらに2条の粘土紐の貼布による垂垂があり、次期の加曽利E式への移行を示すものとみる。いずれも茶褐色を呈し焼成は堅い。

2の深鉢は隆帯による方形の4この区画文とその下に付く櫛形文よりなる中体文で、諏訪地方の井戸尻Ⅲ式に比定され、19・20の櫛形文も同系列の土器にある。10のミニチュア土器は櫛形文の省略とみられ、覆土出土に浅鉢図42の23があり、口唇部に爪形の押引文が施されている。

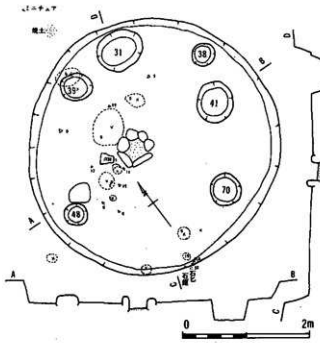


図9　伊久間原28号住居址

石器は、図71の3の石鏃以外は、本址を切る24号・25号・29号住居址の石器の混入もあり、図示を省略した。出土量は多く、打石斧、横刃形石器、磨石、石錘、敲打器、凹石等があり、横刃形石器が僅少で石錘の多いのが注意される。

（出土石器一覧表参照）

土製品（図71の1・2）に土偶頭部と胴部があり1の頭部は扁平な頭と深く刻まれた顔面は優品である。2の胴部片は乳房の突起はなく、沈線で表現している。

23号住居址は縄文中期勝坂式の最末期から加曽利E式への移行の時期の住居址とみたい。

伊久間原28号住居址

（図9）

Ⅱ調査区のほぼ中央より南にやや寄って発見さ

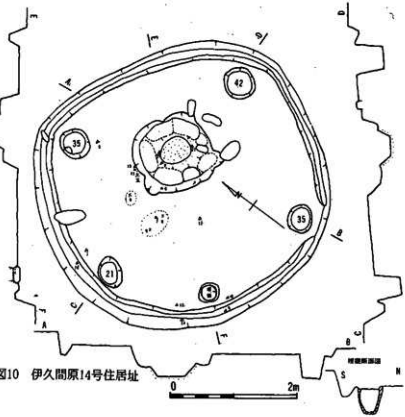


図10　伊久間原14号住居址

れた。径4mの整った円形をなし、北壁で30cm、南壁では40cmの深さにローム層に掘りこむ竪穴住居址である。主柱穴は4ことみるが、北側に75cm×65cm、深さ31cmの楕円形と径35cmの2このピットがあるが、主柱穴とはみられない。床面は堅く、西に片寄って小形の石囲炉がある。

遺物は炉址の西側から北側にかけての床面直上に多くの出土をみている。土器（図43・44・45の21・22）はキャリパー型深鉢を主体にし、文様は口縁横帯文で細い粘土紐の貼布によって飾る23号址出土例（図41）と同じであり、10の人体文とみられる文様構成もみられる。1の深鉢は完形で上下2段に区画する櫛形文の変形を配し、沈線文と刺突文で間隙を埋めている。2は波状口辺に付く櫛形文はやや楕円化し、7・14・15は櫛形文を残している。覆土出土の18・19・21の大形深鉢は、18は口辺部と胴くびれ部に爪形押引文を回らし、胴下部に僅か燃糸文がみられ、19は口頸には細い粘土紐の貼布による格子状文がめぐり、口縁部を4分画する凹レンズ状の把手が付き、上下2段に隆起線文により区画し、内部を斜条線で埋める。21の人体文ともみられるは、懸垂文に転化するものともみられ、中期末葉への移行期の土器群とみる。

石器（図45・71の6・31・53～58）は多く、打石斧、磨石斧、横刃形石器、石錘、石鏃、敲打器、石匙、石錐があり、打石斧が大半を占め、横刃形石器1ことに対し石錘10この出土をみており、23号址と同比率でありこの期の石器のあり方に注目される。(出土石器一覧表参照)

土製品に図71の4・5の土偶があり、4は胴下部から脚部まであり、脊部から脚部にかけて細い半截竹管の押引文で飾る。5は右腕部で手の先端はかすかに細沈線の刻みがみられ、両面は細い押引文が施され4・5は同一個体かとも思われる。この他ミニチュア土器3点があり、図71の29の舟形土器ともみるミニチュア土器は北側テラス上に出土したもので、そこには焼土もみられ、本址に関連するかは不明である。

28号住居址は出土土器、炉址の形態等からみて勝坂式最終末から加曽利E式への移行期に比定される住居址とみたい。

（3） 縄文中期後半

伊久間原14号住居址（図10）

I調査区の東、谷頭浸蝕崖より西9mにあり、これより東に遺構は発見されていない。4.3m×4.45mの隅丸方形に近い円形をなし、西側で25cm、東側で12cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。覆土の暗黒色土は粘土とローム混りで極めて堅く調査に苦労した。床面は堅く、主柱穴4ことが整った配置にあり、周溝が壁に沿ってめぐり、南側の一部が切れている。炉址は中央より北に片寄ってあり、115 cm ×

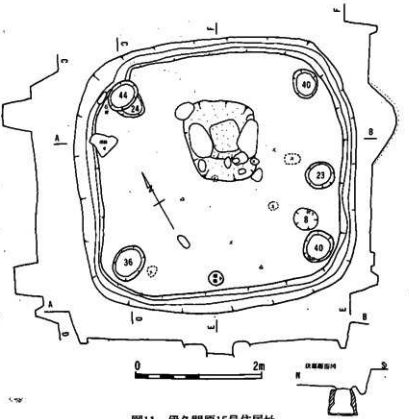


図11 伊久間原15号住居址

125cmの方形、50cm床面より掘りこむ石囲炉であったが石ははずされ、その痕跡を残している。南側の周溝の内側に石蓋をもつ埋甕がある。

遺物は炉址の西側に多くみられ、石器が南側周溝に接し多くの出土をみた。土器（図49）には、2の埋甕、炉址西側出土の大形深鉢、覆土下層出土の4、上層出土の3の深鉢等がある。2は甕形とみられ、底部穿孔である。2の胴部が縄文である以外は、口縁帯の区画文と胴部を縦の波状文、または2～3条の直線沈線により区画し、その間を綾杉文で埋めるが一般的であり、下伊那地方縄文中期後半Ⅱに位置づくものとみる。

石器は大半を図の省略を余儀なくされたが、それらには打石斧、横刃形石器、敲打器、磨石、石錘があり、図示したものに（図71の7～12・14）があり、14の小型磨石斧、7の石匙、8の石錐、9～12の石鏃がある。（出土石器一覧表参照）土製品に図71の13の小型の土玉の出土をみている。

伊久間原15号住居址　（図11）

14号住居址の北北東5m、東の谷頭浸蝕崖より西9mにあり、これより東に遺構は発見されていない。4.2m×4.4mの隅丸方形をなし、北壁で40cm、南壁で30cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。14号址と同様な覆土で調査には苦労した。床面は堅く、主柱穴は4ことみられ、4隅に配置されており、東側に支柱穴とみる柱穴が1こある。炉址は北に片寄ってあり、120cm×110cmの方形の石囲炉であったが北と南の石ははずされている。壁に沿って周溝が全面にめぐり、北西隅の周溝上に石棒が倒れた状態にあった。西壁に寄掛って深鉢1個の出土をみ、南周溝を僅かに入って伏甕がある。

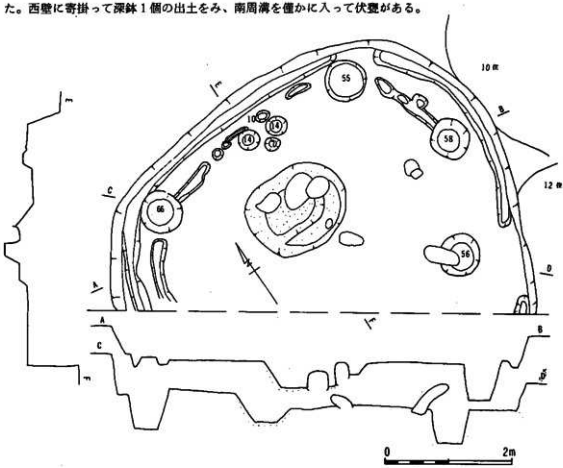


図12　伊久間原24号住居址

遺物（図46・47・48）は多く、土器（図46・47の1～7）には、1の伏甕、2・3の床面出土1～13・図47の1～5の覆土下層出土は同系列の深鉢で、口縁帯は沈線による楕円区画文、胴部は縄文の地文を切る縦の沈線と、区画文または縦の2～3条の沈線の区画を斜めの沈線で埋めるものが主体となる。大形深鉢に1・2があり、深鉢はキャリパー形となる。13は台付土器、覆土上層出土の図47の6・7は波状口縁をなすがみられる。下伊那地方縄文中期後半Ⅱの土器群とみる。

石器、図47の12～23、48の1～13の磨石斧、打石器、横刃形石器、石錐、磨石、凹石と図71の15～20の石匕石錐、石鏃、図72の3の石皿があり、同図4の石棒がある。（出土石器一覧表参照）ミニチュア土器に図46の4の台付形の特殊な形態をなすものがある。

伊久間原24号住居址（図12・13）

Ⅱ調査区南境界の中央部から東にかけてあり、2分の1は用地外となる。東は25号住居址、北東は23号住居址を切っている。東西径6.7mの円形、40cm～50cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く主柱穴は4こ発見されているが、その配置からみて6こと思われる。炉址は中心から北に片寄ってあり120cm×160cmの隅丸方形をなし、北側には3この石の落ちこみがあり、南側に残る段からみて石囲炉であったと推定される。壁に沿って周溝がめぐるが、北と東の一部は切れている。さらに北から西にかけての内側に部分的に切れる周溝があり、拡張の行われた住居址ともみられる。南東の主柱穴に寄掛けられたとみる立石があり、斜めに立つ状態で検出された。

遺物は多く、土器、石器、土偶の出土は類例の少ない出土量を示し、図13にみるように炉址周辺と、その東側に集中しており、床面から床上10～20cm前後にある。（出土測定は床面以外は上部で行ったため、実際にはそれより低い地点である）南の用地境界線での覆土断面図でみるように遺物の出土は少なくなり小破片のみで床面出土は1点のみとなる。

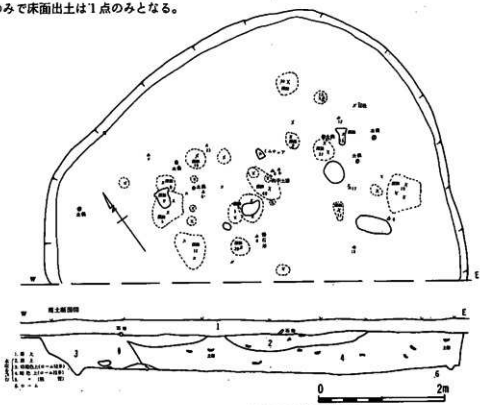


図13　伊久間原24号住居址遺物出土状況

土器（図50～54）には、深鉢、台付土器、釣手土器、小形鉢、壺形（図50の２）とみるがある。大形深鉢図51の１は高さ59cm、口径40cm、底部穿孔となる。図53の１も同じ大きさとなるが胴下部を欠き、前者と折重なって出土をみ、胴部を切る縦の沈線が２条と３条の違いをみるだけで、器形、文様構成は同一で対をなすものと注目される。主体をなすは頸部のくびれは少なく、口縁のあまり大きくない深鉢で口縁帯は楕円区画文の一群が大半を占め、渦巻文つなぎによる区画文（図50の５、51の１、53の１）をもつ一群とよりなり、胴部は２～３条の縦の沈線、波状文で切り、その間を綾杉文で埋めるが多く、縦の条線で埋める（図51の４）もある。唐草文による図50の１は赤褐色を呈し精選された土器であり、図52の１は唐草文の変形とみられる。図50の４は胴部に横位の２条の波状沈線をめぐらし、東海地方の影響をもつ土器とみられる。図53の４の覆土出土は口縁部から縦の条線が施され、口縁部に二重の円文が１ヒ描かれている。図51の２は三角状と平線状の対をなす突起をもつ口縁をなし、整った器形と文様構成をもつ飾られた土器とみられる。

頸部のくびれをもたぬ深鉢図51の３、52の２・３があり、小型鉢では図52の２は復合口縁をなし、２条の縦の沈線と綾杉文が施され、一般的にみられるタイプである。52の３は口縁部を１条の凹帯文がめぐり器面は研磨されている。51の３は口唇部に刻目がめぐり、胴部に僅かに条線が施される特異な土器である。

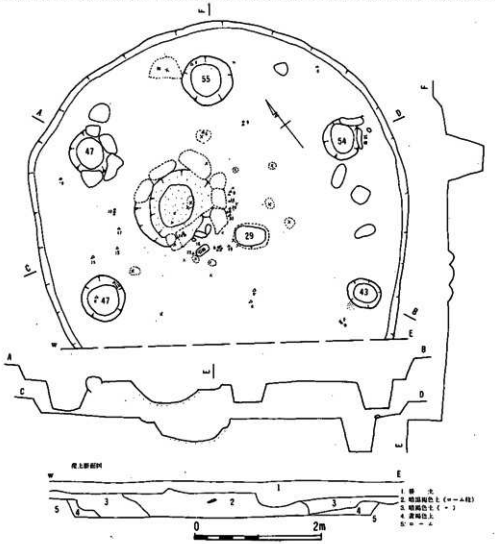


図14　伊久間原26号住居址

小形鉢図51の6は口縁に2この並ぶ突起をもち、1条の沈線をめぐらし、縄文が施されるものである。釣手土器（図54の13・14）13は縄状の釣手は横に把手状につき、これから釣ったとみられる。14は釣手部を欠き不明であり、小型のものである。台付土器（図54の15・16）はともに対する2孔があり、15は幅広い縦の隆帯の貼布がみられ、それ以外の文様はない。図54の11の把手は27号住居址出土の図63の1の台付壺の把手に類似する。

土偶（図55）は13個体分があり、頬例の少ない出土量である。扁平な頭頂部と顔面の作りは稚拙であるが胴部から脊部、脚部にかけては精巧に表現されている。6は臍部を強調したとみるが欠けており不明である。ミニチュア土器に図55の14があり、坏形をなし、手づくねの痕を残している。

24号住居址の土器には結節縄文をもつ土器はみられず、下伊那地方縄文中期後半Ⅱの一群とみる。

石器（図56・57・71の21～28・72の5）には磨石斧、打石斧、横刃形石器、敲打器、凹石、石錘、石匕不定形石器、石鏃、ポイント、掻器、石皿の出土をみており、その量は多い。床面出土量に比し覆土出土量がはるかに多く、石器出土状況には注意される。（出土石器一覧表参照）

伊久間原25号住居址（図8）

Ⅱ調査区の南東隅にあり、南は用地外となり、2分の1以下の調査となる。西は24号住居址に切られ、北と東は23号、29号住居址の一部を切っている。しかし南東側は耕作の荒れと住居址の重複により不明の点が多い。東西径5.6m前後の円形の竪穴住居址である。床面は堅く、本址につくとみる柱穴は1こがはっきりする以外は不明であるが、その配置からみて4こと思われる。炉址は西に片寄ってあり、85cm×110cmの長方形をなし、三方石囲炉である。炉址の東に径120cmの円形、深さ24cmの掘りこみがあるが、その性格は不明であった。

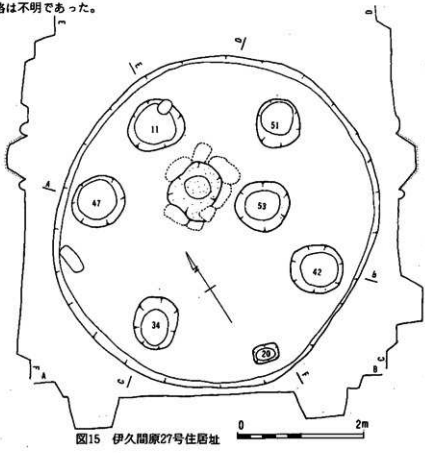


図15　伊久間原27号住居址

遺物（図64）土器は少なく、小破片である。床面から覆土下層は下伊那地方縄文中期後半Ⅰ～Ⅱとみる土器であるが、上層出土には中期後半終末期とみる24・27がみられ重複する住居址群の新しい時期のものの混入とみられる。石器は割と多く打石斧、小型磨石斧、横刃形石器、敲打器、磨石石錘、ポイント、石錐等の出土をみている。（出土石器一覧表参照）

土製品に耳栓（図71の36・37・38）3こと、土偶脚部（図71の32）の出土をみている。

伊久間原26号住居址（図14）

Ⅱ調査区南西部に発見され、24号住居址の西1.7 mにあり、南3分の1は用地外となる。東西径5.85 mの円形、西と北で20cm、東で32cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、主柱穴は5こ検出されているが、その配置からみて6ことみられる。北西の柱穴の東半分には周囲に4この石を並べ、東の柱穴には東側に自然石の石棒（図72の8）が、それと┐状をなして北側に扁平な石（図72の9）が置かれていた。炉址は中心より片西に片寄ってあり、100 cm×150 cmの楕円形をなす石囲炉がみられ、石のはずされた痕跡を残している。炉址の南に石棒（図72の7）の折れが覆土下層より出土している。おそらく住居址廃絶後の投入とみられ、宗教的行事も考えられるものである。

遺物は多く、炉址周辺に集中しており、南の用地境界線の断面図でみるように覆土上層に土器片1点の出土にすぎない。

土器（図58・59）図58の1の完形の鉢は北柱穴の北側に置かれてあり、口径41.3 cm、高さ32cm、僅かにくびれる頸部に渦巻文つなぎの区画文の内部を縄文で埋め、胴部には全面縄文が施される。2も鉢とみられ、頸部は強くくびれ、口縁部は大きく外反し無文、胴部は縄文が施される。土器の主体をなすは深鉢で頸部のくびれの弱い図58の4～6があり、6は口縁部は隆帯の円文をはさむ区画文とその内部を細い条線で埋め、口辺部に波状をなす押引文が施され、胴部は無文となる。5も内部を刺突文で埋める隆帯の円文をはさむ区画文と胴部は沈線文でかざり、4は口縁部を渦巻文つなぎの内部を縄文で埋める区画文と胴部は縄文の地文を切る2本の沈線によって区画されている。キャリパー形をなす3は、縄文の地文に口縁部に2本の隆帯をめぐらしている。7の胴部は沈線による唐草文とみられる。

床面、炉址出土の土器には中期後半の古い要素をもつ土器がみられ、覆土出土には沈線文が大半を占め器形を整えているものに図59の27がある。下伊那地方縄文中期後半Ⅱに位置づく土器群である。

石器（図60・61）出土量は多く打石斧、磨石斧、横刃形石器、石錘、敲打器、磨石、凹石があり、打石斧の量が大半を占め、横刃形石器が僅少であり、石錘19この出土量の多いのが注目される。石棒（図72の7・8）は2個出土し、7は覆土下層出土で折れており、安山岩製である。8は自然の形をそのまま利用したもので、同図9の扁平な石と東柱穴に沿って┐状をなして出土したものである。海浜石（図71の41・42）2こが検出されている。

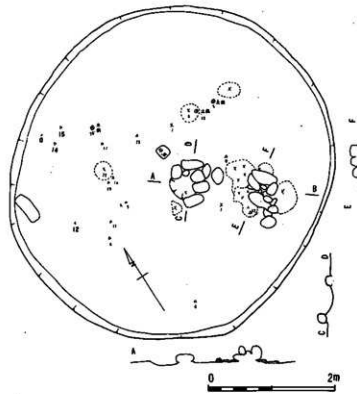


図16　伊久間原27号住居址内集石

土製品（図71の39・40、図59の21）40は頂部から垂直に孔を通し土偶頭部ともみられたが顔面はなく、把手とみられるが何であるかはっきりしない。39の耳栓は径1.7 cmの小形のものであり、ミニ

チュア土器に図59の21があるが口縁部を欠いている。

伊久間原27号住居址　（図15・16）

Ⅱ調査区24号住居址の北1.1m、26号住居址の東1mにあり、南北径4.35m、東西径5.3mの楕円形をなし、北壁で30cm南壁で20cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く柱穴は7こ発見されているが、その配置からして4この主柱穴とみられる。南側には長方形の小さく深さ20cmの柱穴が、北側には主柱穴大であるが10cm前後の浅い柱穴であり、炉址の東に主柱穴大の柱穴があるが、建替の行なわれた住居址とはみられなかった。炉址は中心より北に片寄ってあり、130cm×100cmの長方形の石囲炉とみられ　石のはずされた痕跡を残している。

炉址の南東に2つのパートをなす石組（図16）があり、その下に（床面）台付甕（図63の1）をはじめ深鉢（図62の1・2）の出土をみている。また土偶頭部と胴部の3点が床面直上から覆土に出土しており住居址廃絶直後に同らかの儀礼が行なわれたものと推測される。

遺物（図62・63）土器は石組下層出土の図62の1・2、東柱穴に沿う床面出土の5、床直上出土の3等にみる口縁帯を渦巻文つなぎの区画文を縄文で埋め、胴部は2本の綾の沈線で区画し、その間を綾の波状沈線文と縄文で埋め、大小の差はあるが同一器形、施文による深鉢が主体をなしている。7の炉址出土の胴部は羽状縄文が施され、4は沈線文による区画文と唐草文が施されている。甕には図63の2があり、1の大形台付甕は石組下層よりの出土でほぼ完形、対をなす豪華な把手が付き、胴部を大きな唐草文で飾るもので、下伊那地方で稀にみる土器である。いずれも下伊那地方縄文中期後半Ⅱの土器群である。

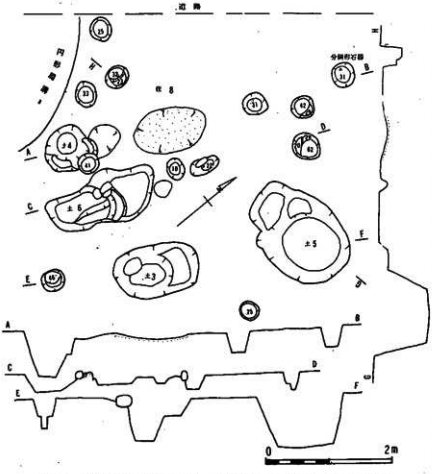


図17　伊久間原21号住居址、土壙3号・4号・5号・6号

石器は小型石器を除き図を省略したが、その出土量は多い。（出土石器一覧表参照）しかし、多くは覆土中、上層の出土である。打石斧、磨石斧、横刃形石器石錘があり、図示（図71の52・53）した52は磨器、53は釣針形をした異形石器、54は小型の磨石斧でノミである。図72の6の石皿1この出土をみている。本址でも横刃形石器の少ないのが注目される。

土製品に図71の43～45の土偶の頭部、胴部があり、46～51の耳栓5この出土をみている。

伊久間原29号住居址（図８）

Ⅱ調査区の南東端にあり、２分の１は用地外となる。耕作の深耕によって荒れており不明の点が多いが住居址の輪郭を知ることができた。北は23号住居址を切り、西は25号住居址に切られているとみられる。東西径約5.5ｍの円形をなす竪穴住居址であるが、主柱穴は切り合い関係のためはっきりせず、また床面も耕作で荒れている部分もみられた。中央部に二段に落ちこむ竪穴が掘りこまれ、炉址とみる焼土を切っており、竪穴の北壁に振える石は炉址の残りとみられる。竪穴は住居址に付属するものではなく、その遺物より見て後につくられた別個の土壙ともみられる。

遺物（図65）は少なく、床面の土器はなく、覆土下層出土は胴部片のみで縄文と沈線文によるもので下伊那地方縄文中期後半Ⅱに位置づく。竪穴内と覆土上層土器は結節縄文土器が主体となり、下伊那地方縄文中期後半Ⅳに位置づくものである。石器（出土石器一覧表参照）は打石斧１こが床面より検出されたにすぎない。

（4）縄文晩期

伊久間原21号住居址（図17）

Ⅰ調査区北側にあって南西は円形周溝墓Ⅱに接し、南から東は土壙４・６・３号に接しあっている。竪穴をもたず、ローム面に床面をもつ。床面は全面に焼けと木炭がみられているが、そのプランを把握するには不十分であった。不規則にとりまく柱穴群のほぼ中央に炉址があり、浅い楕円形の掘り凹みで全面に焼土は著しい。

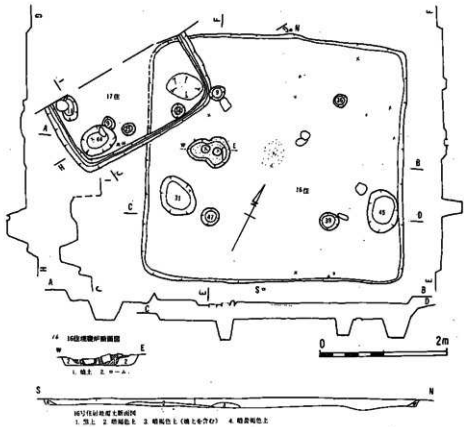


図18　伊久間原16号・17号住居址

遺物（図66・71の59～61）は床面及び柱穴内よりの出土をみている。土器（図66の1～22）には、弧状文（1・4・10）・磨消縄文（8・10～13）・羽状文（18・19）・条線文（ヘラ状具 6・櫛状具 21）・無文（3・13）・口唇部に押引文（2・7・8・10・12・16）・太い横位の沈線文（7・14）等の施文があり、注口土器の注口（17）・椀形土器に9があり、無文で指圧痕がみられ、ほぼ完形である。縄文晩期初頭に位置づく土器とみたい。

石器（図66の23～35、71の60・61）には分銅形石器、打石斧、磨石斧、磨石、石錘、敲打器、石鏃があり、打石斧が大型化し、磨石斧が多くなることが注目され、35の敲打器は側面に敲打痕をもつもので繊維を打つものとみられる。（出土石器一覧表参照）土製品（図71の59）に環状をなす耳飾かともみられるが検出されている。

（5）弥生後期

伊久間原16号住居址　（図18）

I調査区の西側にあり、西隅を17号住居址によって切られている。3.9ｍ×4.1ｍの隅丸方形、15cm前後の深さにローム層に掘りこむ竪穴住居址である。覆土（図18の断面図）は大部分が黒色土で縄文期住居址にみられた堅さはない。床面は堅く主柱穴は4こ整った配置にあり、炉址は西側柱穴間の中間にあり、

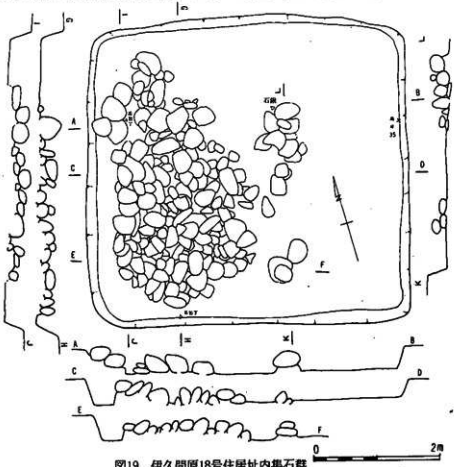


図19　伊久間原18号住居址内集石群

東西方向に並ぶ2個の炉壇をもち、東側のには枕石1こを東に置いている。住居址のほぼ中央に焼土があり、壇2個体の出土をみている。西側に1こと東壁に接して1この貯蔵穴とみる掘りこみがある。

遺物（図67の1～18）土器には壺・甕・高坏があり、壺形（1）は立ち上がり口縁帯に縦の沈線を口縁部に大きな波状文をめぐらし、甕形（2～6）の器形を残すものは無文、口縁部の強く外反する中島式後半にみられるものである。甕形の破片（8～11）には波状文がみられる。高坏（7）は坏部は稜をもって大きく外反し、脚部はラッパ状に開くが有孔かは欠損のため不明である。いずれも中島式後半に位置づくものである。

石器　床面出土（13・14）には石鏃があり、覆土上層出土（15・18）には敲打器、石錘、横刃形石器、分銅形石器がある。（出土石器一覧表参照）

伊久間原17号住居址（図18）

Ⅰ調査区の西端にあり3分の2は道路にかかり調査不能であり、16号住居址の西隅の一部を切っている。南北2.55ｍの隅丸長方形をなすとみられ、25cm前後の深さにローム層に掘りこむ竪穴住居址である。北側には耕作の荒れがみられるが、残る床面は堅く、柱穴は4こ発見されているが主柱穴ははっきりしない。南隅には44cm、北隅には11cmの深さをもつ掘りこみがあり、南隅のピット内に甕（図67の19）、またピット東壁上層より高坏（図67の20）が出土し、これらは古い時期の土師器とみられ、本址に関連しない土壙とみた方がよいかも知れない。床面出土には図67の21の甕があり、中島式後半の無文の甕である。本址が古墳時代の住居址か弥生時代終末の住居址であるか、さらに検討を要するものである。

伊久間原18号住居址

（図19・20）

Ⅰ調査区のほぼ中央部にあり、東側の一部は22号住居址の上に張床となっている。4.9ｍ×5.1ｍの整った隅丸方形をなし、深さ35～40cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。西側3分の2近くは覆土から床面に接して人頭大以上の石による集石群（図19）があり、廃屋墓とみられたが、その確認は得られなかった。

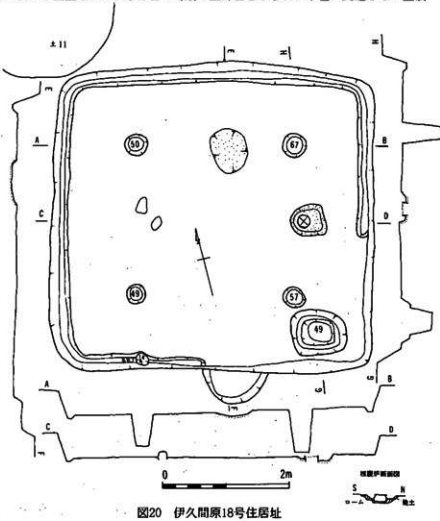


図20　伊久間原18号住居址

集石中よりの遺物はなく、その上層から多くの出土をみている。

床面は堅く、主柱穴は4こ整った配置にあり、炉址は東側柱穴の中間より僅か東に寄ってあり、埋甕炉である。北側柱穴間の東にやや寄って浅い掘り凹みをもつ焼土があり、僅かに炉址の形態である。2この炉址をもったとみるより前者に炉の位置を変更したとみられた。南東端に貯蔵穴とみる掘りこみがあり、周溝が東壁ぎわの中間部から北・西・南側中間部にまで壁に沿ってめぐらされており、南壁の中央部テラスに出入口とみる半円の深さ20cmの掘りこみが付いている。

遺物（図68）　土器は多く、1の炉甕は口縁はくの字状に強く外反し、胴はふくらみ無文で口縁部は刷毛目、胴部はヘラ整形が施されている。床面出土の2・3は壺の立ち上がり口縁帯部、4の器台は完形で坏部は小さく、脚部は大きく裾部に開き3孔を有す。5の高坏脚部も3孔がみられ、6は壺の口縁部で波状文が施され、中島式終末期とみられる。7は集石群下層床面よりの出土で同一個体片が数点あり、弥生中期の壺頸部である。

覆土出土の土器は古墳時代前期の土師器である。甕に8～10があり、台付甕の台部に12があり、高坏に11・14と上層出土の16・17があり、11は下伊那地方での出土例の稀な器形である。17はほぼ完形で東壁上層のテラスに沿って出土している。覆土出土の土器の多くは集石群上層が多く、集石群との関連が推測され、高坏の多くの出土からみても弥生終末期の住居址廃絶後、多くの石（天竜川の石である）を並べ、古墳時代の古い時期に祭祀的な行事の行われたものと考えたい。

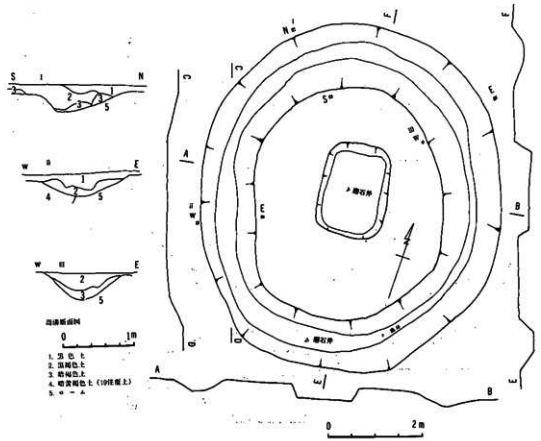


図21　伊久間原円形周溝墓Ⅰ

石器　床面出土（18～22）には石包丁2、石鏃3の出土をみており、20・21の大形石鏃は弥生中期に伴う石器とみられ、上層出土（23・24）には打石斧と磨石斧の出土をみているが、本址に関連するものかは不明である。（出土石器一覧表参照）

2. 円形周溝墓

伊久間原円形周溝墓Ⅰ(図21)

Ⅰ調査区南西端部にあり、その下層には縄文早期の19号住居址がある。南北径7.2m、東西径6.35mの楕円形の範囲に幅1～1.2m、深さ30cmの周溝をめぐらし、陸橋をもたない。ほぼ中央部に200cm×145cm、深さ30cm弱の主体部があり、主軸方向N40°Wを測る。周溝・主体部の覆土は多少の違いはあるが黒褐色土、暗褐色土で底部は西側は19号住居址の堅い覆土暗黄褐色土となり東側はローム層となる。

遺物（図69の1～7）　土器には甕、高坏があり、1は無文、2は欠山式、3には波状文をみる甕片、高坏脚部に4があり、弥生終末期の土器であり、石器（出土石器一覧表参照）6は蛤刃をなす磨石斧、7の体部底部出土の小形磨石斧は19号住居址に伴うものとみられる。円形周溝墓Ⅰの構築時期を遺物よりみて中島式終末期と推測される。

伊久間原円形周溝墓Ⅱ（図22）

Ⅰ調査区の西端部にあり、3分の2は用地外の道路にかかる。南北径6.5m前後とみる範囲に幅120～140cm、深さ30cmのローム層に掘りこむ周溝をめぐらす円形周溝墓である。主体部は発見されていないが道路の下に存在するものと推定される。周溝内の遺物（図69の8～12）には、8・9の無文の弥生終末期とみる土器片と、石器には10の石包丁、11の石鏃、12の有肩扁状形石器（出土石器一覧表参照）の出土を

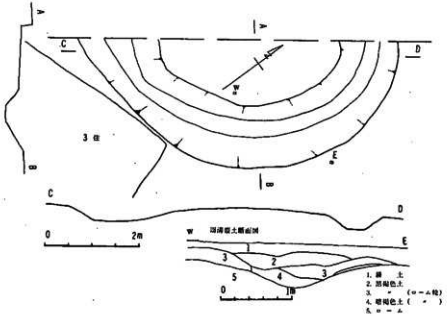


図22　伊久間原円形周溝墓Ⅱ

みており、構築時期は弥生終末期とみられる。

3. 土　壙

I調査区のみに発見され1号から13号が検出され、土壙群を形成しているが、時間的な差がみられる。1号・11号にみる大きな土壙もあり、縄文中期後半・晩期・古墳時代前期ともみるものがある。これらを次の一覧表（表1）にまとめた。

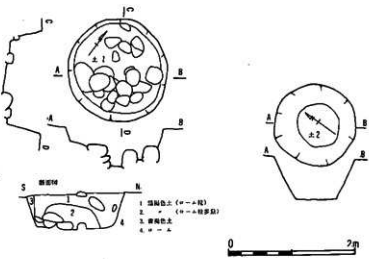


図23　伊久間原土壙1号・2号

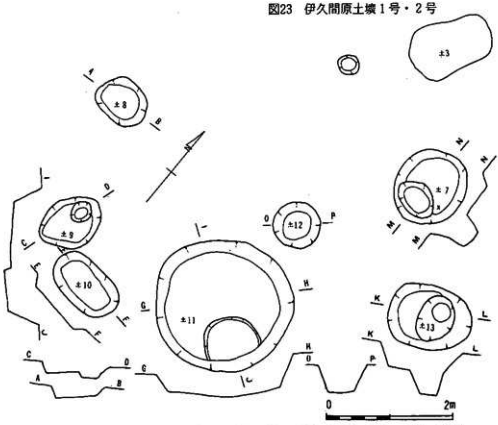


図24　伊久間原土壙7号・8号・9号・10号・11号・12号・13号

伊久間原土壙一覧表（表1）

土壙No	図No	大きさ(cm) 南北・東西	深さcm	形状	主軸方向	遺物	備考	時期	遺物図No
1	23	160 × 155	54	円形	N38°W	擦鉢半個体（ヘラ描きの条痕文をもつ）横刃形石器2	内部に人頭大以上の石が詰る	晩期初頭	70の1～3
2	11	128 × 125	68	〃	N40°W	なし		不明	
3	17	138 × 80	67	楕円形	N35°W	縄文晩期土器片、磨石斧1. 敲打器1.	2段に落ちこむ	縄文晩期初頭	70の4～9
4	〃	83 × 70	71	円形	N28°E	縄文晩期土器片、磨石斧1.	〃	〃	70の10～12
5	〃	120 × 176	76	変形楕円	N85°E	なし	段をもって落ちこむ	不明	
6	〃	178 × 80	30 11	〃	N26°E	〃	2個に分かれる	〃	
7	24	125 × 110	59 21	楕円形	N0°W	台器脚部	2段に落ちこむ	古墳時代前期	70の13
8	〃	86 × 65	22	〃	N88°E	なし		不明	
9	〃	110 × 78	20 11	変形楕円	N20°E	〃	北側に柱穴状の掘りこみ	〃	
10	〃	79 × 118	16	楕円形	N80°W	〃		〃	
11	〃	211 × 220	60	円形	N58°W	縄文中期後半土器片、打石斧、横刃形石器	覆土に木炭多し東側に掘りこみ	縄文中期後半	70の14～19
12	〃	70 × 74	48	〃	N52°E	縄文後期土器片		縄文後期	70の20・21
13	〃	131 × 100	38	楕円形	N60°E	無文土器片数点		〃 ？	

4. 伊久間原遺跡伊久間原面出土石器一覧表（表2）

硬……硬砂岩　凝……凝灰岩　花……花崗岩　黒……黒曜石
打……打石斧　横……横刃形石器　敲……敲打器　分銅……分銅形石器

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
19住	37	1	礫器	硬	15.4	10.3		床
	〃	2	石匕	玄山岩	3.5	4.2		〃
	〃	3	〃	〃	2.3	4.1		〃
	〃	4	敲	凝	6.5	1.2		〃
	〃	5	不定形石器	黒	2.2	0.5		〃
	〃	6	剝片石器	黒	2.4	1.0		覆土下層
	〃	7	ポイント	チャート	2.5	1.5		〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
19住	37	8	石鏃	黒	1.3	1.0		覆土下層
〃	〃	9	〃	〃	1.4	0.5		〃
〃	〃	10	〃	チャート	1.4	1.5		〃
〃	〃	11	〃	黒	1.2	1.4		〃
〃	〃	12	〃	チャート	1.5	1.5		〃
〃	〃	13	〃	黒	1.5	1.5		〃
〃	〃	14	〃	黒	1.3			〃 折れ
〃	〃	15	〃	チャート		1.0		〃 〃
〃	〃	16	〃	黒	1.7	1.1		〃
〃	〃	17	〃	チャート	1.5	1.3		〃
〃	〃	18	石錐	黒	2.4	1.0		〃
〃	〃	19	〃	〃	2.4	0.8		〃
〃	〃	20	〃	〃	2.0	0.6		〃 折れ
〃	〃	21	スクレーパー	〃	1.5	2.5		〃
〃	〃	22	〃	チャート	3.0	3.5		覆土中層
〃	〃	23	石鏃	黒	1.9	1.1		〃
〃	〃	24	剥片石器	〃	2.0	2.0		覆土上層
〃	〃	25	石鏃	〃	1.2			〃 折れ
〃	〃	26	ポイント？	〃		2.0		〃 〃
〃	〃	27	石鏃	サヌカイト		1.6		〃 〃
〃	〃	28	〃	チャート	1.9	1.4		出土点不明 欠
〃	〃	29	〃	黒	1.1	1.2		〃
〃	〃	30	〃	〃	1.7	1.2		〃
〃	〃	31	〃	〃	1.5	1.5		〃
〃	〃	32	〃	〃	1.7	1.3		〃
〃	〃	33	石錐	〃	1.8	0.6		〃
22住	39	1	石鏃	〃	1.4	0.9		床
〃	〃	2	〃	〃	1.5	1.3		〃
〃	〃	3	〃	〃	1.2	1.1		〃
〃	〃	4	〃	〃		1.5		〃 欠
〃	〃	5	〃	チャート	2.2	1.5		〃
〃	〃	6	〃	黒		0.9		〃 欠
〃	〃	7	〃	〃		1.6		〃 欠
〃	〃	8	石匕	〃	1.4	2.1		〃
〃	〃	9	石錐	チャート	3.0			〃
〃	〃	10	スクレーパ	〃	2.1	4.0		〃
〃	〃	11	〃	〃	2.7	3.5		〃
〃	〃	12	石錐	黒	3.4			〃
〃	〃	13	〃	〃	1.9			覆土下層
〃	〃	14	ポイント	チャート		2.1		〃 折れ
〃	〃	15	石鏃	黒	1.0	0.9		〃
〃	〃	16	〃	〃	2.0	1.8		〃
〃	〃	17	〃	〃	1.2	1.1		〃
〃	〃	18	〃	〃	0.8			〃 欠

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
22住	39	19	石鏃	チャート	1.9	1.4		覆土下層 欠
〃	〃	20	〃	黒	1.3	1.6		〃
〃	〃	21	剥片石器	〃	2.2	1.3		〃
〃	〃	22	石鏃	〃	1.4	1.4		〃
〃	〃	23	磨石	砂岩	3.0	2.4		覆土
〃	〃	24	石鏃	黒	1.3	1.3		〃 欠
〃	〃	25	〃	サヌカイト	1.4	1.4		〃
〃	〃	26	〃	黒	1.8	1.3		〃 欠
〃	〃	27	〃	〃	1.0	1.2		〃
〃	〃	28	〃	〃	1.6	1.1		〃
〃	〃	29	〃	〃	2.3	1.8		〃
〃	〃	30	〃	〃	1.1	0.8		〃
〃	〃	31	〃	〃	1.1	1.0		〃
〃	〃	32	〃	サヌカイト	1.8	1.4		〃 欠
〃	〃	33	不定型	黒	2.3	0.9		〃
〃	〃	34	石匕	チャート	1.6	1.1		〃
〃	〃	35	石鏃	黒	1.2	1.3		〃
〃	〃	36	〃	〃	2.2	1.4		〃 欠
〃	〃	37	〃	チャート	1.5	1.4		〃 欠
〃	〃	38	ナイフ	黒	3.2	1.2		〃
〃	〃	39	スクレーパー	チャート	2.5	5.2		〃
〃	〃	40	石匕	黒	6.0	4.1		〃
〃	〃	41	スクレーパー	チャート	2.0	2.9		〃
〃	〃	42	石匕	サヌカイト	4.4	2.2		出土点不明
〃	〃	43	石鏃	黒	1.6	1.6		〃
〃	〃	44	〃	〃	1.1	1.2		〃
〃	〃	45	〃	〃	1.0	1.0		〃
〃	〃	46	〃	サヌカイト	1.3	1.2		〃
〃	〃	47	剥片石器	黒	1.9	1.2		〃
〃	〃	48	石鏃	〃	1.6	1.2		〃 欠
〃	〃	49	スクレーパー	チャート	2.8	3.0		〃
〃	〃	50	〃	黒	1.4	1.5		〃
〃	〃	51	〃	〃	1.6	1.8		〃
〃	〃	52	〃	チャート	1.4	1.4		〃 欠
〃	〃	53	剥片石器	黒	2.1	1.2		〃
〃	〃	54	磨石	花	8.9	10.0		床
〃	〃	55	敲	凝	12.7	3.2		覆土上層
〃	〃	56	〃	硬	9.0	3.8		覆土下層
〃	〃	57	〃	〃	10.3	3.6		〃
〃	〃	58	凹石	花	9.5	10.1		〃
〃	〃	59	〃	硬	8.2	10.0		〃
〃	〃	60	〃	花	8.6	10.4		〃
〃	〃	61	〃	〃	11.8	3.5		〃
〃	72	1	台石	〃	41.6	26.7		床

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
22住	72	2	台石	花	35.1	25.6		床
20住	40	21	打	硬	13.2	4.7	175.0	床
	〃	22	〃	〃	9.0	3.6	78.0	覆土
	〃	23	〃	〃	9.0	4.8	115.0	〃
	〃	24	〃	〃	12.0	4.3	140.0	〃
	〃	25	〃	凝	12.0	4.5	165.0	〃
	〃	26	〃	〃	10.9	3.6	110.0	〃
	〃	27	不定型	チャート	2.1	2.8	8.0	床
	〃	28	横	硬	4.8	8.3	60.0	〃
	〃	29	〃	〃	4.5	10.5	75.0	覆土
	〃	30	〃	〃	6.5	5.0	40.0	〃
	〃	31	〃	〃	6.9	9.3	112.0	〃
	〃	32	砥石？	砂岩	9.3	6.4	215.0	〃
	〃	33	石錘	凝	5.0	3.9	35.0	〃
	〃	34	〃	輝緑岩	5.3	6.1	68	〃
	〃	35	〃	凝	6.0	4.6	68	〃
	〃	36	〃	硬	5.0	3.7	61	床
	〃	37	磨石	〃	8.8	7.3	405	覆土
	〃	38	〃	花	12.2	7.1	622	〃
	〃	39	〃	凝	5.6	4.9	46	〃
23住	なし	1	打	〃	12.6	5.6	312	床面
	〃	2	〃	〃	15.1	4.1	210	〃
	〃	3	〃	〃	14.1	4.2	244	〃
	〃	4	〃	〃	14.7	3.6	121	〃
	〃	5	〃	〃	10.8	3.7	80	〃
	〃	6	〃	〃	9.1	3.8	64	〃
	〃	7	〃	〃	11.6	3.2	82	〃
	〃	8	横	〃	7.5	6.4	39	〃
	〃	9	〃	〃	9.5	4.7	57	〃
	〃	10	石錘	硬	5.2	4.5	58	〃
	〃	11	〃	〃	4.1	2.5	19	〃
	〃	12	〃	凝	5.8	5.4	75	〃
	〃	13	〃	〃	5.9	5.2	74	〃
	〃	14	磨石斧	硬	7.5	5.2	176	炉東ピット内 折
	〃	15	打	〃	8.6	4.5	70	〃
	〃	16	〃	〃	10.0	4.1	82	〃
	〃	17	〃	〃	10.3	3.5	88	〃
	〃	18	〃	〃	10.6	4.1	112	〃
	〃	19	〃	〃	10.8	3.9	130	〃
	〃	20	〃	〃	17.9	4.1	64	〃
	〃	21	〃	〃	8.4	4.9	70	〃
	〃	22	〃	凝	8.3	3.7	54	〃
	〃	23	〃	〃	9.7	4.7	110	〃
	〃	24	〃	〃	9.4	3.8	47	

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
23住	なし	25	打	凝	9.8	3.7	55	炉西 ピット
	〃	26	〃	〃	11.0	4.0	89	〃
	〃	27	〃	〃	10.0	3.2	46	〃
	〃	28	〃	〃	10.8	3.9	81	〃
	〃	29	〃	〃	12.5	3.8	116	〃
	〃	30	〃	〃	10.6	3.6	60	〃
	〃	31	〃	〃	8.5	3.5	51	〃
	〃	32	石錘	硬	7.4	5.0	102	〃
	〃	33	〃	〃	6.3	3.9	76	〃
	〃	34	〃	〃	4.7	5.2	52	〃
	〃	35	〃	凝	5.5	4.6	45	〃
	〃	36	〃	〃	5.5	3.4	42	〃
	〃	37	敲	〃	13.1	4.3	330	〃
	〃	38	磨石	硬	10.6	4.9	254	覆土 (折)
	〃	39	打	〃	14.8	5.3	129	〃
	〃	40	〃	〃	12.3	3.8	87	〃
	〃	41	〃	〃	11.7	3.8	118	〃
	〃	42	〃	〃	9.7	3.7	76	〃
	〃	43	〃	〃	9.2	4.3	65	〃
	〃	44	〃	凝	15.8	5.2	200	〃
	〃	45	〃	〃	14.4	5.4	221	〃
	〃	46	〃	〃	10.6	4.5	72	〃
	〃	47	〃	〃	10.8	4.5	80	〃
	〃	48	〃	〃	9.5	4.2	53	〃
	〃	49	〃	〃	11.2	4.6	108	〃
	〃	50	〃	〃	9.9	4.0	90	〃
	〃	51	〃	〃	9.7	4.0	91	〃
	〃	52	〃	〃	10.7	3.6	54	〃
	〃	53	〃	〃	8.9	3.6	49	〃
	〃	54	〃	〃	10.2	4.3	92	〃
	〃	55	〃	〃	12.1	3.1	50	〃
	〃	56	〃	〃	10.4	4.2	91	〃
	〃	57	〃	〃	10.6	3.7	86	〃
	〃	58	〃	〃	9.4	4.3	69	〃
	〃	59	〃	〃	7.7	3.7	44	〃
	〃	60	〃	〃	8.8	3.5	46	〃
	〃	61	〃	〃	8.6	4.2	64	〃
	〃	62	石錘	硬	9.3	5.0	149	〃
	〃	63	〃	〃	7.3	4.4	60	〃
	〃	64	〃	〃	7.6	4.9	114	〃
	〃	65	〃	〃	9.3	5.9	146	〃
	〃	66	〃	〃	5.4	5.2	64	〃
	〃	67	〃	〃	5.1	4.0	55	〃
	〃	68	〃	〃	6.0	4.4	60	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
23住	なし	69	石鏃	硬	6.0	4.3	65	覆土
	〃	70	〃	〃	6.1	4.6	56	〃
	〃	71	〃	〃	5.0	4.0	45	〃
	〃	72	〃	〃	4.0	3.7	26	〃
	〃	73	〃	〃	3.1	2.5	10	〃
	〃	74	〃	〃	2.7	2.5	9	〃
	〃	75	〃	〃	5.7	4.0	56	〃
	〃	76	凹石	〃	8.6	6.8	305	〃
	〃	77	横刃	〃	8.1	5.5	60	〃
	〃	78	〃	〃	9.0	4.8	59	〃
	〃	79	〃	〃	7.9	4.1	39	〃
	〃	80	敲	凝	6.1	1.3	21	〃
	71	3	石鏃	黒	2.3	1.3		〃
23号住居址は、24住、25住、29住に切られ、調査段階で23住を先行調査したため、3住居址の石器が混入しており、単独住居址のものとみることはできないものが多く含まれているとみられる。								
28住	45	1	打	硬	16.0	5.6	250	床
	〃	2	〃	〃	11.4	4.3	80	〃
	〃	3	〃	〃	12.4	3.8	130	〃
	〃	4	〃	〃	12.2	3.6	98	〃
	〃	5	〃	〃	9.6	4.8	95	〃
	〃	6	〃	〃	11.2	3.7	105	〃
	〃	7	〃	凝	9.5	4.8	125	〃
	〃	8	〃	〃	9.0	8.0	175	〃 (折)
	〃	9	〃	〃	9.6	4.5	90	〃
	〃	10	〃	〃	10.7	5.3	135	〃
	〃	11	〃	〃	9.3	3.9	50	〃
	〃	12	横	硬	7.5	12.0	195	〃
	〃	13	敲	凝	7.8	1.7	35	〃
	〃	14	石鏃	硬	5.1	3.9	45	〃
	〃	15	〃	〃	5.0	4.3	40	〃
	〃	16	〃	凝	6.5	3.7	60	〃
	〃	17	〃	〃	6.5	3.5	60	〃
	〃	18	〃	硬	4.6	3.6	40	〃
	〃	19	〃	凝	6.2	4.1	68	〃
	〃	20	〃	硬	3.0	3.4	20	〃
	〃	21	打	〃	12.0	5.0	140	覆土
	〃	22	〃	〃	11.1	3.1	80	〃
	〃	23	〃	〃	10.4	4.5	80	〃
	〃	24	〃	〃	10.9	4.6	100	〃
	〃	25	〃	〃	9.7	5.0	70	覆土 下層 (折)
	〃	26	〃	凝	11.5	3.5	92	〃
	〃	27	〃	〃	11.1	3.9	90	〃
	〃	28	〃	〃	9.6	3.7	92	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
28住	45	29	磨石斧	閃緑岩	7.4	4.4	180	覆土 下層 (折)
	〃	30	石錘	硬	8.8	5.8	156	〃
	〃	31	〃	〃	4.3	3.3	32	〃
	〃	32	〃	凝	5.3	4.2	56	〃
	71	6	石ヒ	頁岩	7.6	3.7	35	覆土上層
	〃	31	石錐	黒	2.7	0.5		〃
	〃	55	石鏃	〃	2.0	1.4		ピット内
	〃	56	〃	〃	2.3	1.6		〃
	〃	57	〃	石ヒ？				〃 (折)
	〃	58	石錐	チャート	2.5	4.5		〃
14住	なし		打	凝	11.4	4.2	80	床
	〃		〃	〃	11.6	4.0	90	〃
	〃		〃	〃	9.2	3.5	55	〃
	〃		石錘	硬	3.0	2.2	5	〃
	〃		敲	〃	15.2	5.9	590	〃
	〃		打	凝	11.1	4.3	65	覆土下層
	〃		〃	〃	9.7	3.4	65	〃
	〃		〃	〃	10.5	3.9	95	〃
	〃		横	硬	8.1	5.2	53	〃
	〃		〃	凝	10.1	4.4	57	〃
	〃		敲	硬	14.4	5.5	432	〃
	〃		〃	凝	6.1	1.1	12	〃
	〃		磨石	硬	5.3	3.7	76	〃
	〃		〃	凝	6.9	4.2	105	〃
	71	14	磨石斧	〃	8.6	2.0	35	〃
	なし		打	硬	12.1	5.0	105	覆土上層
	〃		〃	〃	12.6	3.7	76	〃
	〃		〃	凝	8.6	4.2	69	〃
	〃		〃	〃	10.9	3.8	76	〃
	〃		〃	〃	8.5	3.8	54	〃
	〃		石錘	〃	4.0	2.6	15	〃
	〃		〃	硬	3.9	2.7	19	〃
	〃		横	〃	10.3	5.2	73	〃
	〃		〃	凝	10.1	5.0	75	〃
	71	7	石ヒ	チャート	2.0	1.7		覆土欠
	〃	8	石錐	黒	1.8	0.7		〃
	〃	9	石鏃	〃	1.1	0.7		〃
	〃	10	〃	〃	1.6	1.2		〃
	〃	11	〃	〃	1.2	0.9		〃
	〃	12	〃	〃	1.0	1.2		〃 欠
15住	47	12	磨石斧	硬	24.1	6.0	1,120	床
	〃	13	打	凝	14.4	3.4	95	〃
	〃	14	〃	〃	11.5	4.0	110	〃
	〃	15	〃	硬	16.0	7.5	298	覆土下層

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
15住	47	16	打	硬	12.1	4.5	150	覆土下層
	〃	17	〃	〃	8.9	3.8	42	〃
	〃	18	〃	〃	8.5	4.4	79	〃
	〃	19	〃	〃	11.1	3.8	65	〃
	〃	20	〃	凝	10.8	3.6	63	〃
	〃	21	〃	〃	14.0	4.6	160	〃
	〃	22	〃	〃	8.9	3.0	21	〃
	〃	23	局部磨石斧	〃	8.2	3.5	45	〃
	48	1	横	硬	4.8	5.5	48	〃
	〃	2	〃	〃	3.7	10.0	25	〃
	〃	3	〃	〃	4.4	8.9	36	〃
	〃	4	凹石	安山岩	8.2	5.8	235	〃
	〃	5	磨石	硬	9.5	13.8		〃
	〃	6	打	〃	8.2	4.2	80	覆土上層
	〃	7	〃	〃	10.3	6.0	95	〃
	〃	8	〃	凝	12.3	4.4	103	〃
	〃	9	〃	〃	11.1	3.7	86	〃
	〃	10	〃	〃	11.0	4.0	90	〃
	〃	11	横	硬	6.5	10.5	125	〃
	〃	12	〃	〃	5.0	9.5	64	〃
	〃	13	〃	凝	5.2	8.2	50	〃
	〃	14	石錘	硬	6.3	3.4	35	〃
	71	15	石ヒ	黒	2.0	1.6		覆土
	〃	16	〃	〃	1.6	3.0		〃 基部欠
	〃	17	石鉄	〃	1.6	1.4		〃
	〃	18	〃	チャート	1.7	1.3		〃
	〃	19	〃	黒	1.7	1.5		〃
	〃	20	〃	チャート	1.4	1.1		〃
	72	3	石皿	花	24.5	22.7		床 両面使用
	〃	4	石棒	輝緑岩	21.4	7.5		西壁
24住	56	1	磨石斧	輝緑岩	17.1	5.5	238	床
	〃	2	打	凝	8.3	3.5	68	〃
	〃	3	〃	〃	9.2	3.5	50	〃
	〃	4	〃	〃	7.0	4.0	75	〃 折
	〃	5	〃	〃	13.0	4.9	165	〃
	〃	6	〃	〃	9.2	3.9	76	〃
	〃	7	〃	〃	7.1	3.3	45	〃
	〃	8	横	硬	4.0	7.5	83	〃
	〃	9	〃	〃	3.6	8.5	35	〃
	〃	10	〃	〃	4.6	7.0	42	〃
	〃	11	〃	凝	4.9	8.0	50	〃
	〃	12	〃	硬	7.0	10.5	152	〃
	〃	13	〃	〃	4.8	7.5	60	〃
	〃	14	敲	凝？	9.6	5.1	285	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
24住	56	15	凹石	花	10.3	4.9	645	床
	〃	16	打	硬	8.9	4.1	115	西壁下層
	〃	17	〃	〃	11.0	3.8	53	〃
	〃	18	敲	凝	8.0	2.3	56	〃
	〃	19	横	〃	4.8	7.2	40	〃
	〃	20	石錘	硬	4.5	2.9	22	〃
	〃	21	打	〃	9.3	4.1	72	覆土
	〃	22	〃	〃	8.5	4.2	85	〃
	〃	23	〃	〃	8.0	3.3	53	〃
	〃	24	〃	〃	10.1	3.9	110	〃
	〃	25	〃	〃	10.3	4.8	105	〃
	〃	26	〃	〃	10.2	4.1	80	〃
	〃	27	〃	〃	12.0	4.2	121	〃
	〃	28	〃	〃	11.3	5.3	131	〃
	〃	29	〃	〃	10.6	4.0	100	〃
	〃	30	〃	〃	10.2	4.0	100	〃
	〃	31	〃	〃	10.2	3.5	60	〃
	〃	32	〃	凝	9.2	4.1	85	〃
	〃	33	〃	〃	9.2	4.2	70	〃
	〃	34	〃	〃	11.0	4.3	110	〃
	〃	35	〃	〃	11.9	3.0	70	〃
	〃	36	〃	〃	11.2	3.1	75	〃
	〃	37	〃	〃	11.3	3.6	100	〃
	〃	38	〃	〃	12.0	2.6	63	〃
	57	1	〃	〃	10.5	3.5	50	〃
	〃	2	〃	〃	10.5	3.6	83	〃
	〃	3	〃	〃	11.6	4.0	75	〃
	〃	4	〃	〃	9.6	3.3	60	〃
	〃	5	〃	〃	8.4	3.7	45	〃
	〃	6	〃	〃	8.3	3.7	61	〃
	〃	7	〃	〃 ?	9.7	4.1	76	〃
	〃	8	〃	〃	9.0	4.1	55	〃
	〃	9	〃	〃	9.1	3.9	72	〃
	〃	10	〃	〃	9.6	3.9	76	〃
	〃	11	〃	〃	10.0	3.0	80	〃
	〃	12	〃	〃	10.5	4.1	100	〃
	〃	13	〃	〃	9.8	4.5	70	〃
	〃	14	〃	〃	10.5	4.2	100	〃
	〃	15	〃	〃	17.5	6.6	560	〃
	〃	16	敲	硬	13.8	5.5	635	〃
	〃	17	〃	凝	10.0	6.0	550	〃
	〃	18	〃	硬	11.3	6.0	415	〃
	〃	19	横	凝	3.6	9.6	40	〃
	〃	20	〃	〃	4.6	9.3	75	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
24住	57	21	横	凝	4.9	10.0	84	覆土
	〃	22	〃	硬	7.5	8.0	115	〃
	〃	23	石ヒ	タンパク石	6.6	2.0	25	〃 欠
	〃	24	凹石	花	8.9	3.6	432	〃
	〃	25	敲	凝	8.2	5.0	110	〃
	〃	26	石錘	硬	8.5	7.1	185	〃
	〃	27	〃	〃	9.5	4.7	134	〃
	〃	28	〃	〃	7.4	5.1	140	〃
	〃	29	〃	〃	6.2	4.7	76	〃
	〃	30	〃	〃	5.8	4.3	50	〃
	〃	31	〃	〃	4.0	2.9	15	〃
	〃	32	〃	〃	3.9	2.5	18	〃
	71	21	不定型	黒	5.7	1.5		〃
	〃	22	石鏃	サヌカイト	2.3	1.5		〃
	〃	23	〃	黒	1.6	1.2		〃
	〃	24	掻器	〃	4.0	2.0	6	〃
	〃	27	ポイント	チャート	2.7	1.8		〃
	〃	28	石鏃	黒		1.4		〃 折
	72	5	石皿	花	14.5	25.1		床 半 壊
25住	なし		磨石斧	硬	19.2	5.8	676	覆土下層～床
	〃		〃	凝	6.2	4.6	206	〃
	〃		打	硬	12.2	4.8	149	〃
	〃		〃	〃	12.4	5.3	152	〃
	〃		〃	〃	10.0	4.0	54	〃
	〃		〃	〃	8.2	3.7	50	〃
	〃		〃	〃	9.0	3.8	60	〃
	〃		〃	〃	10.4	3.6	66	〃
	〃		〃	〃	9.5	3.6	61	〃
	〃		〃	〃	9.2	4.8	119	〃
	〃		〃	〃	8.3	4.1	80	〃
	〃		〃	凝	13.8	4.1	161	〃
	〃		〃	〃	10.8	3.8	89	〃
	〃		〃	〃	10.4	3.3	59	〃
	〃		〃	〃	10.9	4.2	99	〃
	〃		〃	〃	9.9	3.6	50	〃
	〃		〃	〃	10.8	4.6	110	〃
	〃		〃	〃	10.1	4.2	85	〃
	〃		〃	〃	10.6	3.9	57	〃
	〃		〃	〃	10.8	4.1	96	〃
	〃		〃	〃	9.7	2.9	50	〃
	〃		〃	〃	9.5	3.8	84	〃
	〃		〃	〃	11.0	4.5	99	〃
	〃		〃	〃	9.5	4.1	90	〃
	〃		〃	〃	9.3	5.1	115	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
25住	なし		敲	凝	9.3	2.3	34	覆土下層～床
	〃		横	硬	9.8	6.1	106	〃
	〃		〃	〃	11.5	5.4	102	〃
	〃		〃	〃	9.8	6.5	124	〃
	〃		〃	凝	10.8	4.7	64	〃
	〃		〃	〃	8.5	5.0	50	〃
	〃		石錘	硬	6.2	4.6	66	〃
	〃		〃	〃	4.4	3.1	16	〃
	〃		磨石	〃	10.6	8.2	579	〃
	〃		〃	〃	12.3	8.4	604	〃
	〃		〃	〃	8.2	5.6	286	〃
	〃		打	〃	12.8	4.6	137	覆土上層
	〃		〃	〃	12.7	3.7	76	〃
	〃		〃	凝	8.5	4.1	62	〃
	〃		〃	〃	9.5	4.5	102	〃
	〃		〃	〃	8.1	4.3	55	〃
	〃		石錘	硬	6.2	4.9	94	〃
	〃		〃	〃	6.1	4.8	66	〃
	71	33	小型磨石斧	凝	6.2	1.7	10	床
	〃	34	ポイント	黒	3.3	1.9		〃
	〃	35	石錐	凝	2.1	2.0	5	〃
26住	60	1	打	硬	12.0	3.5	104	床
	〃	2	〃	〃	10.0	4.5	85	〃
	〃	3	〃	〃	9.2	4.4	100	〃
	〃	4	〃	〃	8.0	3.4	46	〃
	〃	5	〃	凝	13.1	4.2	116	〃
	〃	6	〃	〃	12.5	4.0	90	〃
	〃	7	〃	〃	10.4	4.1	72	〃
	〃	8	〃	〃	8.4	3.9	60	〃
	〃	9	〃	〃	7.1	3.9	45	〃
	〃	10	〃	〃	10.2	4.2	88	〃
	〃	11	〃	〃	8.4	3.5	45	〃
	〃	12	〃	〃	13.2	3.3	125	〃
	〃	13	〃	〃	9.9	2.7	55	〃
	〃	14	〃	〃	9.5	4.2	91	〃
	〃	15	〃	〃	8.6	2.8	20	〃
	〃	16	〃	〃	12.0	3.3	80	〃
	〃	17	敲	硬	12.8	2.5	750	〃
	〃	18	磨石	花	11.8	4.9	950	〃
	〃	19	磨石斧	凝		4.0	83	〃 刃部欠
	〃	20	石錘	硬	7.0	5.3	107	〃
	〃	21	〃	〃	7.0	5.0	115	〃
	〃	22	〃	〃	6.0	4.3	60	〃
	〃	23	〃	〃	7.6	5.3	115	〃

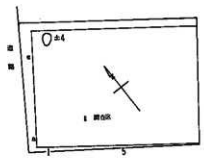
遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
26住	60	24	石鏃	硬	5.3	4.2	46	床
〃	〃	25	〃	〃	3.6	2.7	11	〃
〃	〃	26	〃	〃	3.7	2.8	23	〃
〃	〃	27	〃	〃	3.4	2.9	16	〃
〃	〃	28	横	〃	5.0	8.0	46	〃
〃	〃	29	不定型	凝	4.2	3.8	21	〃
〃	〃	30	〃	〃	5.4	4.5	70	〃
〃	〃	31	打	硬	10.3	3.4	48	床直上
〃	〃	32	〃	〃	10.5	4.0	100	〃
〃	〃	33	〃	〃	11.1	3.6	75	〃
〃	〃	34	〃	凝	17.6	5.5	314	〃
〃	〃	35	〃	〃	11.6	3.4	80	〃
〃	〃	36	〃	〃	13.0	3.5	78	〃
〃	〃	37	〃	〃	11.4	3.6	103	〃
〃	〃	38	〃	〃	9.9	3.0	40	〃
〃	〃	39	石鏃	硬	7.2	4.3	80	〃
〃	〃	40	横	凝	4.4	8.8	42	〃
〃	〃	41	〃	〃	5.8	6.5	49	〃
〃	〃	42	打	硬	10.8	4.3	86	覆土下層
〃	〃	43	〃	凝	10.0	2.9	45	〃
〃	〃	44	〃	〃	12.7	3.6	110	〃
〃	〃	45	〃	〃	10.6	3.4	55	〃
〃	〃	46	〃	〃	11.2	3.6	82	〃
〃	〃	47	〃	〃	11.7	2.8	75	〃
〃	〃	48	〃	凝	11.8	4.6	152	〃
〃	〃	49	〃	〃	10.5	4.3	85	〃
〃	〃	50	凹石	玄武岩	9.0	4.2		〃
〃	61	1	打	硬	10.6	4.7	106	〃
〃	〃	2	〃	〃	11.8	4.8	134	〃
〃	〃	3	〃	〃	10.0	4.0	112	〃
〃	〃	4	〃	〃	10.6	3.7	80	〃
〃	〃	5	〃	〃	9.6	4.1	55	〃
〃	〃	6	〃	〃	9.0	4.0	25	〃
〃	〃	7	〃	凝	11.7	4.0	117	〃
〃	〃	8	〃	〃	11.0	3.0	54	〃
〃	〃	9	〃	〃	13.5	3.2	85	〃
〃	〃	10	〃	〃	11.0	3.2	72	〃
〃	〃	11	〃	硬	9.7	3.0	50	〃
〃	〃	12	〃	凝	9.7	3.0	48	〃
〃	〃	13	〃	〃	8.1	3.0	58	〃
〃	〃	14	〃	〃	8.7	3.1	43	〃
〃	〃	15	横	硬	8.8	11.0	250	〃
〃	〃	16	磨石斧	凝	13.0	2.5	235	〃
〃	〃	17	横	〃	4.0	11.2	60	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅cm	重量g	備考
26住	61	18	横	凝	4.5	8.5	45	覆土下層
	〃	19	石 錘	硬	4.8	5.1	63	〃
	〃	20	打	〃	11.2	5.1	111	覆土上層
	〃	21	〃	〃	10.4	4.0	112	〃
	〃	22	〃	〃	10.5	4.1	110	〃
	〃	23	〃	〃	9.9	4.2	56	〃
	〃	24	〃	〃	12.0	3.7	70	〃
	〃	25	〃	凝	10.1	4.0	72	〃
	〃	26	〃	〃	11.7	4.1	90	〃
	〃	27	〃	〃	11.5	2.7	60	〃
	〃	28	〃	〃	11.6	3.3	76	〃
	〃	29	〃	〃	10.0	4.4	92	〃
	〃	30	〃	〃	10.5	3.7	41	〃
	〃	31	磨石斧	〃	13.0	6.0	560	〃 刃部欠
	〃	32	〃	〃	13.6	4.6	350	〃
	〃	33	〃	閃緑岩	11.6	5.1	340	〃 基部欠
	〃	34	〃	凝	12.5	4.2	220	〃 刃部欠
	〃	35	敲 横	硬	11.3	4.5	315	〃
	〃	36	横	〃	4.3	7.0	42	〃
	〃	37	〃	凝	4.6	5.4	21	〃
	〃	38	石 錘	硬	7.6	6.4	145	〃
	〃	39	〃	〃	8.2	6.6	170	〃
	〃	40	〃	〃	7.0	4.9	83	〃
	〃	41	〃	〃	5.3	4.5	50	〃
	〃	42	〃	〃	4.6	4.4	41	〃
	〃	43	〃	〃	6.0	5.2	90	〃
	〃	44	〃	凝	6.0	4.7	114	〃
	〃	45	〃	〃	7.3	4.4	72	〃
	〃	46	〃	〃	7.2	4.8	143	〃
	72	7	石 棒	安山岩	16.5	12.0		覆土下層 折
	〃	8	〃	凝	33.8	7.2		床 自然石を利用
	〃	9	?	〃	37.3	12.0		〃 火にあう 〃
	71	41		海浜石				
	〃	42		〃				
27住	なし		打	硬	9.1	4.2	86	ピット
	〃		磨石斧	凝	6.2	3.4	35	床～床直上
	〃		打	硬	8.5	3.7	60	〃
	〃		〃	〃	11.7	4.3	114	〃
	〃		〃	〃	12.2	3.7	62	〃
	〃		〃	〃	14.9	3.5	121	〃
	〃		〃	?	8.6	3.3	53	〃
	〃		横	硬	6.7	3.7	25	〃
	〃		石 錘	〃	4.4	4.2	33	〃
	〃		〃	〃	7.3	5.8	135	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
27住	なし		石鏃	硬	5.1	4.5	51	床～床直上
	〃		打	凝	12.4	4.1	112	下層
	〃		〃	〃	10.7	4.5	124	下層 折
	〃		〃	〃	11.9	3.3	74	〃 折
	〃		横	硬	11.2	6.4	106	〃
	〃		石鏃	〃	7.6	4.1	87	〃
	〃		磨石斧	凝	12.0	7.0	557	覆土中層
	〃		〃	蝉緑岩	9.8	4.7	323	〃 折
	〃		打	硬	14.0	5.9	350	〃
	〃		〃	〃	10.5	4.3	51	〃
	〃		〃	〃	14.4	4.6	161	
	〃		〃	凝	11.4	4.3	104	〃
	〃		〃	〃	10.7	3.5	84	〃
	〃		〃	〃	9.2	3.8	76	〃
	〃		〃	〃	9.6	3.6	60	〃
	〃		〃	〃	9.5	3.7	54	〃
	〃		〃	〃	9.6	3.7	51	〃
	〃		〃	〃	10.2	3.3	42	〃
	〃		〃	〃	11.0	3.3	91	〃
	〃		〃	〃	7.4	2.4	21	〃
	〃		敲	〃	13.2	3.3	196	〃 折
	〃		石鏃	硬	7.2	4.7	87	〃
	〃		〃	凝	6.6	5.0	88	〃
	〃		〃	〃	6.4	4.6	66	〃
	〃		磨石斧	〃	15.4	5.3	564	覆土上層
	〃		打	硬	10.8	3.5	82	〃
	〃		〃	〃	11.1	3.8	99	〃
	〃		〃	〃	10.2	4.0	84	〃
	〃		〃	〃	9.2	3.8	57	〃
	〃		〃	〃	9.0	4.0	70	〃
	〃		〃	凝	10.5	4.1	45	〃
	〃		〃	〃	10.6	3.9	101	〃
	〃		〃	〃	12.8	4.7	114	〃
	〃		〃	〃	10.1	3.4	56	〃
	〃		〃	〃	9.6	3.7	92	〃
	〃		〃	〃	10.8	5.6	120	〃
	〃		〃	〃	9.5	3.0	51	〃
	〃		〃	〃	9.6	3.5	45	〃
	〃		〃	〃	10.0	3.7	101	〃
	〃		〃	〃	11.3	3.6	59	〃
	〃		〃	〃	12.2	3.6	80	〃
	〃		〃	〃	8.3	4.0	59	〃
	〃		〃	〃	8.4	4.3	47	〃
	〃		〃	〃	10.4	3.9	52	〃

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
27住	なし		打	凝	7.7	2.8	26	覆土上層
	〃		〃	〃	10.7	3.8	73	〃
	〃		楔	〃	8.9	5.4	80	〃
	〃		〃	〃	8.4	4.9	51	〃
	〃		〃	〃	6.0	3.8	25	〃
	〃		敲	〃	9.6	2.6	80	〃 (折)
	〃		石錘	硬	7.9	5.7	144	〃
	〃		〃	〃	5.6	4.3	56	〃
	〃		〃	〃	5.3	3.6	32	〃
	〃		〃	〃	4.1	3.2	26	〃
	71	52	掻器 (釣針型)	黒チャート	2.9	4.4		覆土
	〃	53	不定型		3.0	0.7		〃
	〃	54	磨石斧	凝	5.5	3.0	35	ピット壁
	72	6	石皿	花	25.0	20.0		床
29住	なし		打	硬	18.1	6.1	540	〃
21住	65	23	分銅	凝	14.4	8.9	790	(折)
	〃	24	打	硬	12.5	6.3	162	
	〃	25	〃	〃	10.8	4.3	105	
	〃	26	〃	凝	11.5	7.3	350	(折)
	〃	27	〃	硬	12.6	8.5	355	
	〃	28	磨石斧	凝	16.6	5.8	785	刃部 欠
	〃	29	〃	〃	13.8	3.6	255	
	〃	30	〃	輝緑岩	13.0	4.3	370	刃部 折
	〃	31	〃	凝	8.9	3.2	157	基部 欠
	〃	32	凹石	花	6.8	2.6	215	
	〃	33	石錘	硬	8.5	4.5	140	
	〃	34	〃	〃	3.3	3.1	189	
	〃	35	敲	凝	7.1	6.0	325	側面全面に敲打痕
	70	60	石鏃	黒	1.2	1.0		ピット
	〃	61	〃	〃				〃 欠
16住	66	13	石鏃	凝	17.0	6.5	390	上層
	〃	14	〃	硬	11.3	7.0	188	〃
	〃	15	敲	〃	10.8	3.0	130	〃
	〃	16	石錘	〃	6.0	3.9	40	〃
	〃	17	楔	硬	4.8	9.5	62	〃
	〃	18	分銅	〃	12.0	8.5	508	〃 (折)
18住	67	18	石包丁	〃	4.0	6.2	28	床
	〃	19	〃	〃	4.6	6.8	53	南壁
	〃	20	石鏃	〃	19.2	7.2	498	床
	〃	21	〃	〃	20.8	6.7	670	〃
	〃	22	打	〃	12.5	6.0	225	〃
	〃	23	〃	〃	9.4	4.8	83	上層
	〃	24	磨石斧	輝緑岩	14.1	5.0	350	〃
円周溝基1	68	6	〃	凝	7.5	5.2	170	周溝 基部折

遺構	図番号	No	器種	材質	長さcm	幅 cm	重量g	備考
円周溝墓I	68	7	磨石斧	凝	6.2	3.5		主体部
円周溝墓II	68	10	石包丁	硬	4.1	8.0	45	周溝
	〃	11	石鏃	〃	16.6	8.0	360	〃
	〃	12	有肩扁状形	〃	10.7	10.2	360	〃
土1	69	2	横	凝	6.1	8.0	76	刃部 欠
	〃	3	〃	〃	7.1	6.6	100	
土3	〃	8	磨石斧	〃	6.9	3.8	75	
	〃	9	敲	硬	12.6	4.0	445	
土4	〃	12	磨石	〃	8.5	4.3	148	
土11	〃	18	横	凝	6.5	11.0	182	
	〃	19	打	硬	12.6	3.2	90	



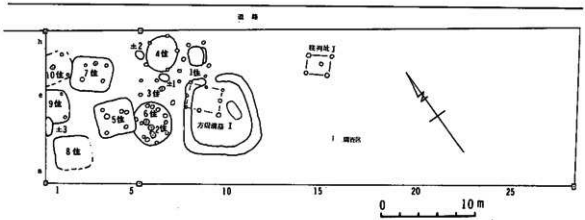


図25 伊久間原遺跡下原面遺構図

（Ⅱ） 伊久間原下原面の遺構・遺物

伊久間原下原面で発掘調査した遺構は次のようである。（図25）

住　居　址　（縄文中期2　縄文後期3　弥生後期3　中世1　不明1）
柱　列　址　1
方形周溝墓　1
土　　壙　4

下原Ⅰ調査区では東側の段丘崖下には遺構はなく、西側に集中して発見されているが、大部分は長芋栽培等による深耕のため遺構の多くは荒れており、収穫時に遺物も掘り出されたものとみられ、かつて表採遺物に比し出土遺物は少なく、不充分の調査に終わっている。Ⅱ調査区では北西端部に土壙4号を検出したのみである。下原面の遺構番号は伊久間下原1号から付すことにした。

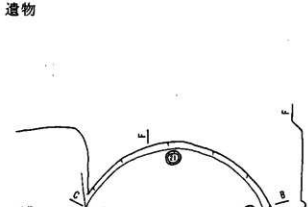


図28　伊久間下原6号住居址

1. 住　居　址

（1） 縄　文　中　期

伊久間下原6号住居址（図28）

Ⅰ調査区の西側にあり、2号住居址の下部に発見され、西側の一部は5号住居址によって切られている。南北径4.4m、東西径4.42mの円形、ローム層に25～30cm掘りこむ竪穴住居址である。床面は堅く、柱穴は7こ発見されているが、主柱穴は6ことみられる。炉址は中心より、北西に片寄ってあり、60cm×50cmの方形となる石囲炉であったが炉石ははずされ、その痕跡を残している。

遺物（図73の20～22）は僅少で縄文中期中葉末の土器片と敲打器が検出されたにすぎない。炉址の形態と土器からみて勝坂式終末の住居址とみられる。

伊久間下原３号住居址（図26）

２号住居址の北に４号住居址の南に接し、炉址の発見により住居址の存在を確認したもので壁は削りとられたものとみられる。床面の残る範囲によって径4.5ｍ位の円形となる住居址であるが、竪穴住居址であったかは不明である。主柱穴は６ことみられ、炉址は北に片寄ってあり、径70cmの円形の掘りこみで焼土を全面にもつ。

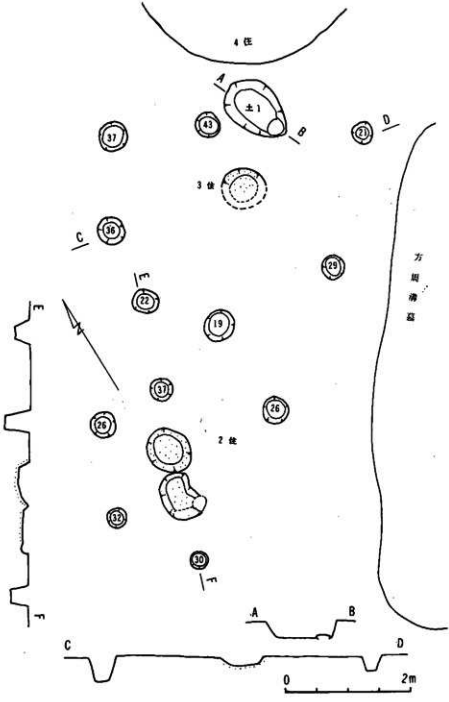


図26　伊久間下原２号、３号住居址、土壙１号

遺物（図73の４～７）は僅少で土器片に結節縄文（５）がみられ、石器には大形打石斧がみられ、縄文中期後半終末期とみるが資料不足ではっきりいえない。

（２）縄文後期

伊久間下原２号住居址（図26）

３号住居址の南に接し、炉址の発見により住居址の存在を確認した。壁の有無は不明であるが、残る床面によって径４ｍ前後の円形プランをなすとみられる。主柱穴とみるは５こ検出され、住居址の中心部とみるより西に片寄って、炉址は２こが南北方向に並び、北側の炉址に造り替えられたとみるが不明である。

遺物（図73の１～３）は極めて少なく、縄文後期とみる土器片と打石斧１が検出されたにすぎない。

伊久間下原４号住居址（図27）

Ｉ調査区の西半分の北側に発見され、南北径3.8ｍ、東西径3.4ｍの楕円形、20cm前後の深さにローム層に掘りこむ竪穴住居址である。長芋栽培の深耕により床面には荒れがみられ、床面を部分的に残している。主柱穴とみるは壁またはテラスに５こが検出されているが、東側柱穴は浅い。南側には浅い掘り凹みがあり、木炭、灰が詰まっていたが焼土はみられず、炉址とは判明できなかった。

遺物（図73の８～14）は縄文後期とみる土器片10数点が検出されているのみである。

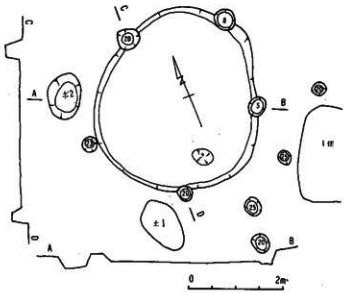


図27　伊久間下原４号住居址

伊久間下原10号住居址（図30）

Ｉ調査区北西端部にあり、３分の１余は用地外となる。長芋栽培の深耕によって荒れて

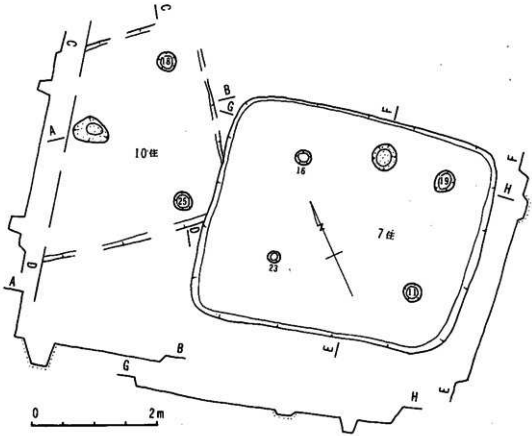


図30　伊久間下原7号・10号住居址

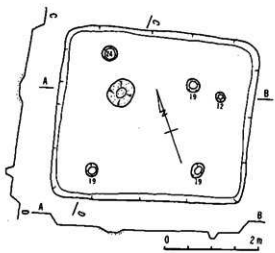


図29　伊久間下原5号住居址

おり十分な把握はできなかったが南北辺3.2mの方形になるとみられ、ローム層に10cm前後掘り込む竪穴住居とみられる。主柱穴は2こ発見されているが4ことみる。炉址はほぼ中央部にあり、55cm×40cmの楕円形の深さ38cmの地床炉で焼土は著しい。

遺物（図73の18・19）は少なく土器には19の精製土器と無文の土器片数点があり、18の磨石斧が検出されており、縄文後

期の住居址と思われる。

（3）弥生後期

伊久間下原5号住居址（図29）

6号住居址の西の一部を切り、南北 3.55 m × 東西 4.15 m の隅丸方形をなし、ローム層に25cm掘りこむ竪穴住居址である。床面は部分的に堅い面を残し、長芋栽培による荒れがみられる。主柱穴は4本とみるが、北東側には2この柱穴がみられるがその配置は不規則であり、他に柱穴があるとみられるが、耕作の荒れのため不明である。炉址は西側柱穴間の中央より北に片寄ってあり、楕円形をなす地床炉である。

遺物（図73の15～17）は縄文後期とみる土器片と打石斧が検出されているが、住居址の形態からみて弥生後期のものとみたい。

伊久間下原7号住居址（図30）

10号住居址の南東隅を切り、南北 3.5 m × 東西 4.3 m の隅丸長方形、ローム層に15cm前後掘りこむ竪穴住居址である。耕作による荒れが床面に部分的にみられ、主柱穴は4こ、炉址は北側の柱穴間の中央よりやや北に寄ってあり、円形の地床炉である。

遺物（図73の23）は少なく、中島式の小片数点と23の甕底部の出土をみ

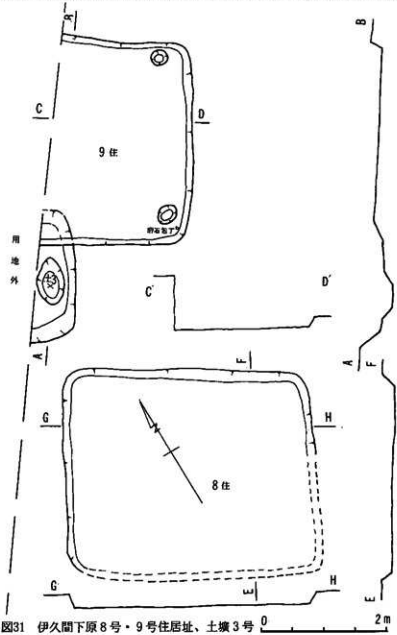


図31　伊久間下原8号・9号住居址、土壙3号

ているにすぎない。住居址の形態と遺物からみて中島式の住居址である。

伊久間下原９号住居址（図31）

Ｉ調査区の西端部にあり、２分の１は用地外となる。南北辺3.8ｍの隅丸方形をなすとみられ、約20cmローム層に掘りこむ竪穴住居址である。床面は長手栽培の荒れがみられ、部分的に堅い面を残している。柱穴は２こ発見されているが、その配置から主柱穴は４ことみる。炉址は西側にあるとみられる。

遺物（図73の24・25）は少なく、24の波状文をもつ甕片は中島式とみられ、25の磨製石包丁の出土をみている。

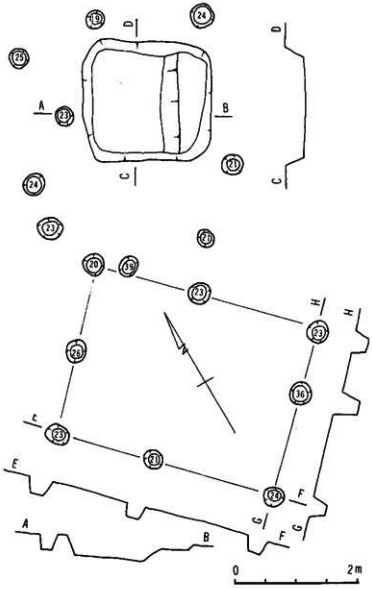


図32　伊久間下原１号住居址、柱列址Ｉ

（４）中　世

伊久間下原１号住居址（図32）

Ｉ調査区Ｇ８グリッドに発見され、南北1.9ｍ×東西2.1ｍの隅丸方形の東側３分の１は10cmの深さ、西側は50cmの深さにローム層に掘りこむ竪穴を中心にして周囲に不規則に並ぶ８この柱穴が検出されている。さらに南に続く２間×２間の建物址がある。その西側の柱列は方形周溝墓Ｉの西溝の西側に掘りこまれ、方形周溝墓より後のものと判明しており、竪穴に伴うものとみた遺物は図示しないが中世陶器片数点があり、伊久間原西端にあった伊久間城跡に関連ある住居址とみたい。

以上の住居址の他に8号住居址（図31）としたのがあるが、北壁と西壁が検出され、隅丸方形となる竪穴住居址とみたが、長宇栽培のため、床面を部分的に残す以外は柱穴、炉址も発見されず、住居址の疑いももたれるものである。

2 柱 列 址

伊久間下原柱列址Ⅰ　（図33）

Ⅰ調査区のほぼ中央部北側に発見さ

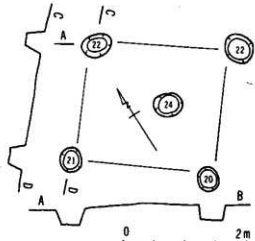


図33　伊久間下原柱列址Ⅱ

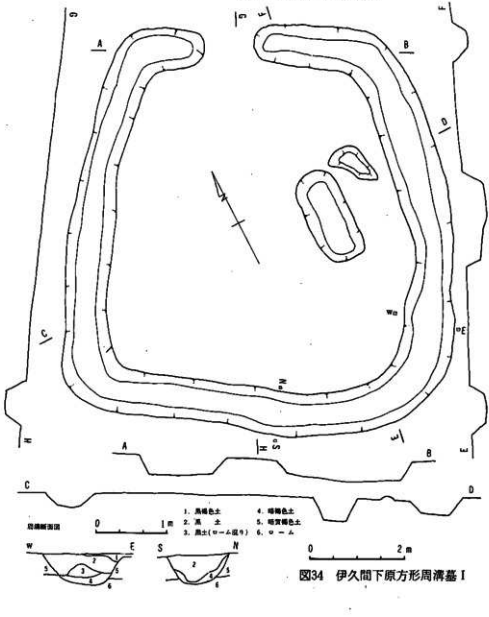


図34　伊久間下原方形周溝墓Ⅰ

れ、1間×1間（南北2.1m×東西2.4m）の掘立の建物址である。遺物（図73の26～28）には26の弥生後期中島式の波状文をもつ壺頸部片の他、無文片の僅かと27の打石斧、28の海浜石の出土をみている。石器については不明であるが、土器片からみて弥生後期の倉庫址ともみられる。

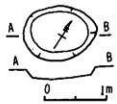


図35　伊久間下原土壙4号

3. 方形周溝墓

伊久間下原方形周溝墓Ⅰ（図34）

Ⅰ調査区B～F列8～11にあり、南北8.6m×東西8.1mのやや不整形な隅丸方形の範囲に幅80cm～110cm、深さ30cm～40cmの溝をめぐらし、北側に幅105cmの陸橋がつく。主体部は中心部より東に片寄ってあり、200cm×92cmの隅丸長方形をなし、深さ48cmローム層に掘りこむ土壙であり、主軸方向N3°Eを測る。その北東に小さなロームマウンドがつく。

遺物（図73の29～32）は主体部にはなく、東溝より石鏃とみる29～32が検出されており、弥生後期の方形周溝墓とみる。

4. 土　　壙

Ⅰ調査区で1号～3号、Ⅱ調査区で4号が検出され、これらを表3にまとめた。

伊久間下原土壙一覧表（表3）

土壙No	図No	大きさ(cm) 南北×東西	深さcm	形状	主軸方向	遺物	備考	時期	遺物図No
1	26	115×66	28	楕円形	N 20° W	なし		不明	
2	27	100×72	28	〃	N 32° E	〃		不明	
3	31	200×？ 74×46	47 67	隅丸長方形	N 30° E	縄文中期中葉末　深鉢半個体分　粘土紐の貼布による文様構成	内部に深さ20cmの掘りこみがあり深鉢出土	縄文中期中葉末	図73の34
4	35	88×118	18	楕円形	N 57° E	石鏃1	Ⅱ調査区	縄文中期？	図73の33

ま　と　め

1. 伊久間原遺跡は飯田・下伊那地方屈指の遺跡として知られ、ここに昭和53年度事業として畑潅水工事が全区域にわたって実施されることになり、それに先立って遺跡の性格を知るために昭和52年度事業として喬木村教育委員会が主体となり発掘調査が昭和52年10月７日より昭和53年２月18日にわたって行なわれた。

2. 伊久間原では昭和27年・29年度農道開発事業の際、縄文中期後半の住居址３、古墳時代後期住居址10が発見されている。伊久間原には堀垣外・孤立・ホウゲン・城ノ上・館林・ハマイバ・角園（遺跡台帳には角田とあるが誤り）・下原等の遺跡が登録されているが、下原は緩い傾斜をもつ段丘崖によって一段下位段丘となる他は同一段丘面にあり、これを小字によってその境界を引くことは難しく、また一般的には伊久間原遺跡と呼ばれており、このため伊久間原遺跡と総称することにした。

3. 発掘調査は伊久間原面で２か所、下原面で２か所の調査可能の畑を借りて行ない、伊久間原面では住居址は縄文時代の早期末２・中期中葉末３・中期後半７・晩期１・弥生時代後期３。円形周溝墓２・土壙13を調査した。下原面では住居址は縄文中期中葉末１・縄文後期４・弥生後期２・中世１・不明１と柱列址２・方形周溝墓１・土壙４を調査しているが、下原面は長芋栽培のため荒れが著しく、不安定な遺構が多く、また遺物も僅少であった。

遺構番号は、下原面は下原１・２号と付したが、伊久間原面では以前よりの番号を踏襲し、14号住居址よりの番号を付すことにしたが、出土遺物は発掘時の１・２…号のまま整理したため、１号住居址は14号住居址のものとなっている。

4. 縄文早期末の住居址は、覆土は極めて堅く、楕円形の竪穴住居址をなし、浅い楕円形の地床炉をもつ。土器は、①木島Ⅰ式に比定される尖底の所謂「細線文指圧痕薄手土器」が主体となり、平口縁、口辺部に刻目をめぐらし、暗褐色を呈し、細線文をもつものと無文で指圧痕を強くもつものがあり、波状口縁をなし、口縁部に粘土紐のはりつけ状の懸垂をもつ１点にすぎない。②茅山式、③無文のやや厚手の尖底土器の３類がみられる。

石器には石鏃、石匕、石錐、ポイント、剥片石器、凹石、敲打器等があり、特に石鏃の多いのがこの期の特色とみられる。石材には黒曜石・チャートが多く、玄武岩・サヌカイトも僅かにみられる。

5. 縄文中期中葉末の住居址は、円形プランをなす竪穴住居址であるが、中期後半の住居址に比しその規模は小さく、炉址は小型の石囲炉である。土器はキャリパー型の深鉢を主体にし、文様は細い粘土紐の貼布によって構成され、勝坂式後半にみる櫛形文は区画内の縦の沈線が省略される傾向を示し、中期中葉末から後半期一勝坂式から加曽利Ｅ式への移行期に位置づくものとみられる。石器は打石斧が大半を占め横刃形石器は少なく、それに比し石錘の多いのが注目される。

6. 縄文中期後半の住居址の規模は大きく、炉址も大きい。15号住居址は隅丸方形に近い形態をなす他は円形の竪穴住居址である。特殊な住居址とみる24号・26号住居址は径6mを越え、6この主柱穴をもつとみられる他は4この主柱穴である。同時期の切合関係をもつは24号・25号・29号住居址であるが、29号住居址内に掘りこまれている竪穴（用地外に大半はかかる）を除き、下伊那地方縄文中期後半Ⅱ期に比定される土器群で結節縄文をもつ土器は皆無である。29号住居址内竪穴よりは結節縄文土器のみが検出され下伊那地方縄文中期後半Ⅳ期の中期終末期の遺構とみられ、おそらくⅡ調査区より南にこの期の遺構が展開されていると予想される。

24号住居址出土遺物は多量で、完型土器は多く、それらの多くは炉に沿った周辺に床面より折り重なる状態で出土をみており、置かれた状態ともみられるが土偶片11個体分が散らばる状態で出土をみており、住居の廃絶後における宗教的行事がなされたものとも予想される。24号址に隣接する26号住居址は柱穴のまわりには石を並べ、東側の1つには自然石を利用した石棒を配していた。これら土偶をもつ住居址と石棒をもつ住居址の対照的なあり方は注目される。

7. 縄文後・晩期の遺構は下原面で後期の住居址が検出されているが耕作によって荒らされ、不十分な把握に終っている。晩期の遺構は伊久間原面で住居址1と土壙2が調査され、住居址はいずれも竪穴をなす住居址とはみられず、そのプランも十分に把えられなかった。晩期の土器については、縄文後期との見方も強いが、その器形、文様からみて晩期初頭のものと考えたい。

8. 弥生時代後期の遺構は伊久間原Ⅰ調査区と下原Ⅰ調査区に発見され、他には発見されていない。この期の集落のあり方は昭和53年度畑灌水工事による遺跡確認調査をまつものである。下原面での方形周溝墓、伊久間原面では円形周溝墓が検出され、両者の時期的な問題、性格等については今後の資料によって解明されるものと思われる。

土器は甕形はすべて無文となり、16号住居址は明らかに中島式後半といえるが、17号・18号住居址の覆土出土は古墳時代前期の土師器である。18号住居址西側3分の2を占める集石群と覆土出土の土器との関連は十分に把握されなかったが、弥生終末期の住居址廃絶後に大きな天竜川の河原石による集石群を築き祭祀的な場としたものと思われ、住居址東側の覆土及びテラス上よりの数点の高环出土によっても予想される。これら住居址の炉壊、床面出土の土器が、弥生終末期から古墳時代への移行期とみてきているが、古墳時代前期に位置づくものと考えられ、今後の検討すべき課題である。

9. 昭和27年・29年度農道開発工事の際、古墳時代後期住居址10が発見調査されているが、今次調査では、この期の住居址の発見はなく、その時期の集落のあり方も昭和53年度の灌水工事に伴う遺跡確認調査にまつものである。

10. 伊久間原面の集落は、Ⅱ調査区北側には遺構はなくなり、Ⅰ調査区では、さらに南と西に延びる遺構群が予想され、縄文時代では早期末・中期中葉末から後半、後・晩期と続き、弥生時代の中・後期、古墳時代の前期から後期へ続く各期の集落が、段丘面の東側を南北方向に切る谷頭浸蝕の谷に沿って、その谷頭浸蝕の終わる地点を中心とした西側に展開されているものと予想される。下原面では縄文後・晩期から弥生時代にかけての集落は段丘面の北側から西側の段丘端部にかけて展開されているものと考えられる。

伊久間原全面にわたって行なわれる昭和53年度畑灌水工事による遺跡確認調査によって伊久間原遺跡の全貌が明らかにされるものと期待されるが、この遺跡の保存については十分な考慮を要望したい。

おわりに今次調査にあたっては厳寒のさ中、調査員吉沢郁人先生をはじめ作業にあたられた方々の献身的なご協力、お骨折りがあり、大沢和夫先生、矢亀勝俊先生、今村善興先生のご指導、地域の方々のご理解のあったことを深謝したい。

（佐　藤　甦　信）

調　査　組　織

1. 伊久間原遺跡発掘調査委員会

下平　真広	喬木村教育委員会委員長
下岡　郁男	喬木村教育長
宮下　恵	喬木村教育委員
木間　孝佐	〃
小池　敬次	〃
原　五郎	喬木村文化財保護委員
吉川　敏雄	小渋土地改良区伊久間事業所
丸山　春美	〃
吉沢　重幸	〃

2. 調　査　団

団　長	佐藤　甦信
調査員	吉沢　輝人

3. 指　導　者

大沢　和夫	長野県考古学会会長
矢亀　勝俊	下伊那誌下伊那地質誌編集委員会会長
今村　善興	長野県教育委員会文化課指導主事

4. 事　務　局

下岡　理則	喬木村教育委員会総務係長
田中　君子	喬木村教育委員会社会教育係兼公民館主事
林　定保	

5. 作　業　員

新井　千尋	小原　静二	池田　隆雄	大平　房人
田中　正憲	宮下　義広	清呂木修策	平沢　稔
北島　喬二	宮下　元治	原　三行	吉川　弥生
柳沢八重子	福島　明夫	北村　重実	中平　兼重
内山　順一	平栗　光司	宮沢　浩	下平　國枝
木下　美穂	原　史樹	大平ミサヲ	大平　あや

遺物整理、製図

佐藤いなゑ	中平　一夫	田口さなゑ	牧内　佳子

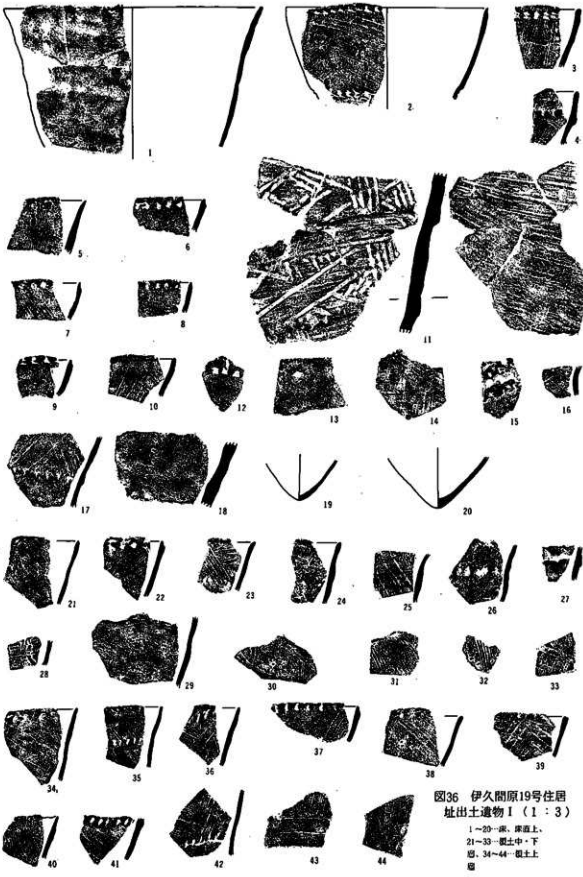


図36　伊久間原19号住居址出土遺物Ⅰ（1：3）

1～20…床、床直上、
21～33…掘土中・下
層、34～44…掘土上
層

図37　伊久間原19号住居址出土遺物Ⅱ（1：3）

1～5…床、6～21…覆土下層、22・23中層、24～27…上層、28～33…出土不明

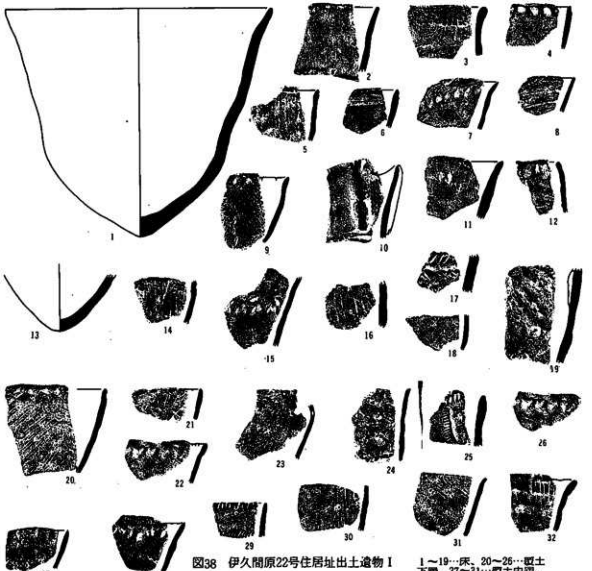


図38　伊久間原22号住居址出土遺物Ⅰ（1：3）

1～19…床、20～26…覆土下層、27～31…覆土中層、32…上層

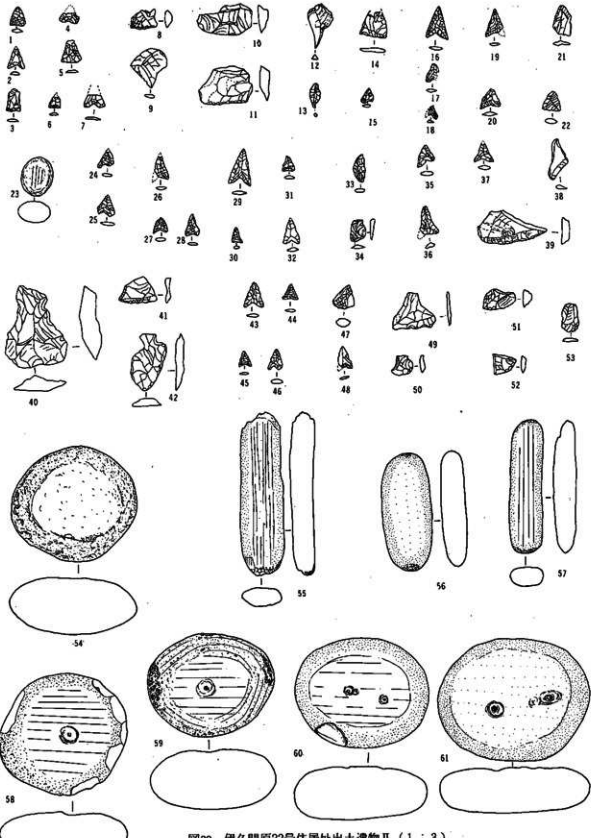


図39　伊久間原22号住居址出土遺物Ⅱ（1／3）

1～13・54…床、14～23・56～60…覆土下層、24～42・55覆土、
43～53…出土点不明

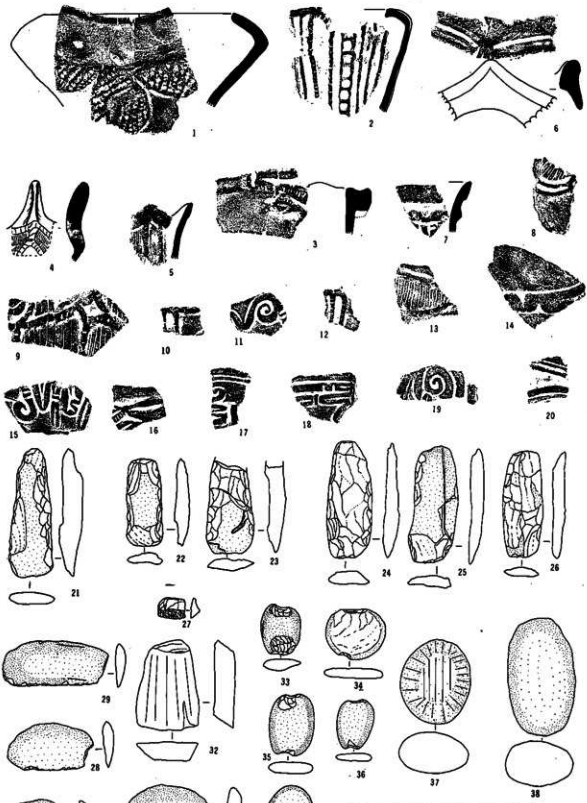


図40　伊久間原20号住居址出土遺物
（1：4）

5～12、21・27・28・36…床、1～4・13～20・22～26・29～35・37～39…覆土

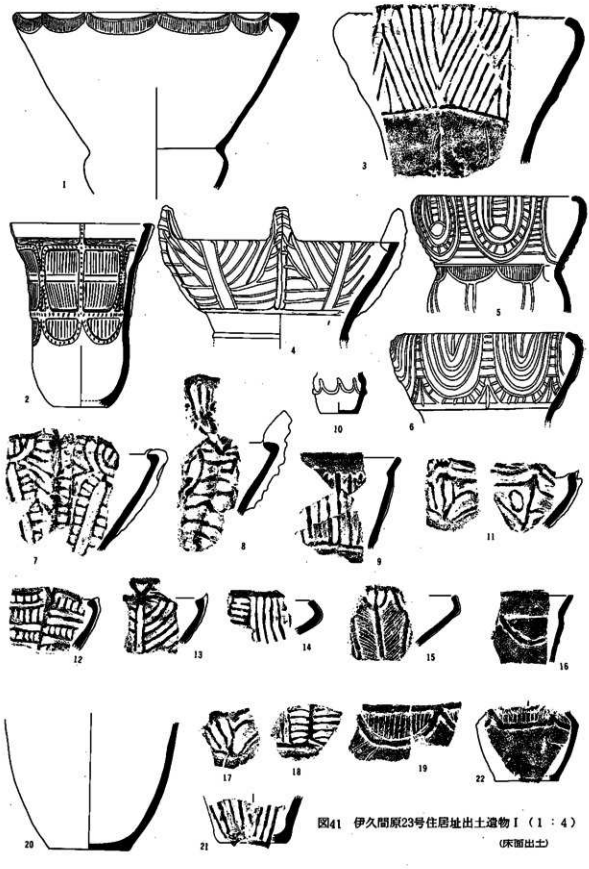


図41　伊久間原23号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）
（床面出土）

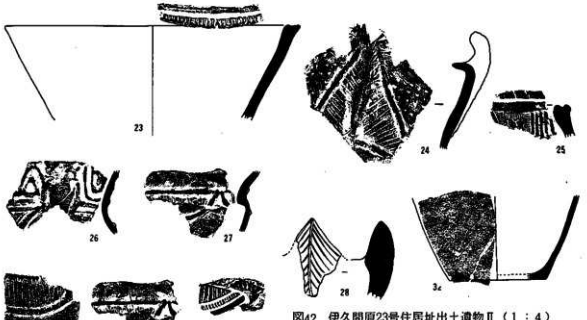


図42　伊久間原23号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）
（23～32…覆土）

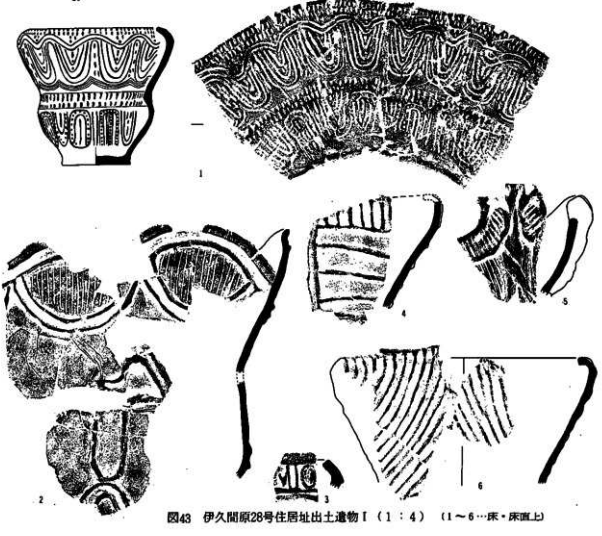


図43　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）（1～6…床・床直上）

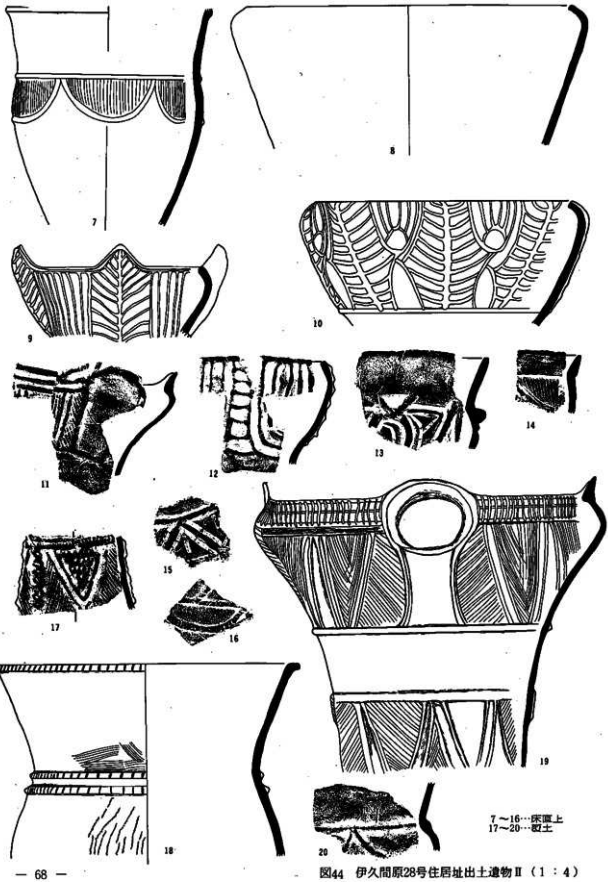


図44　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）

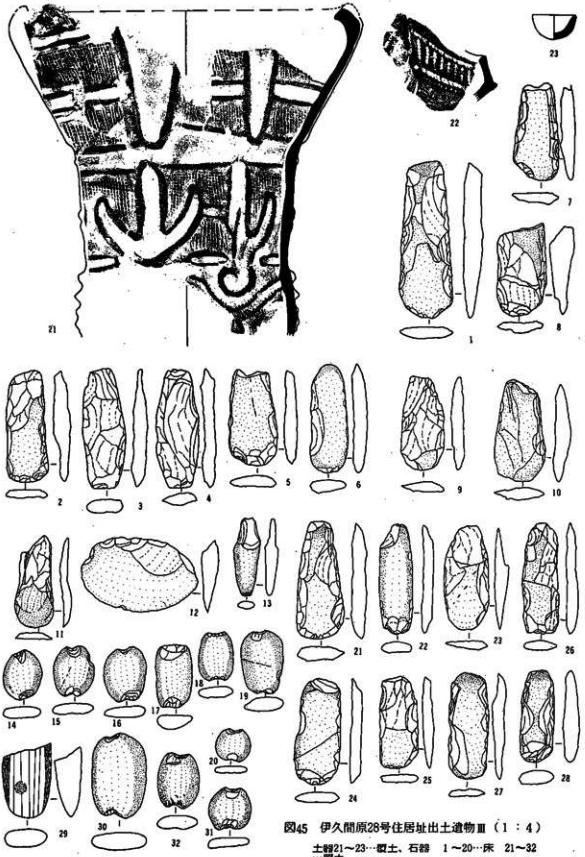
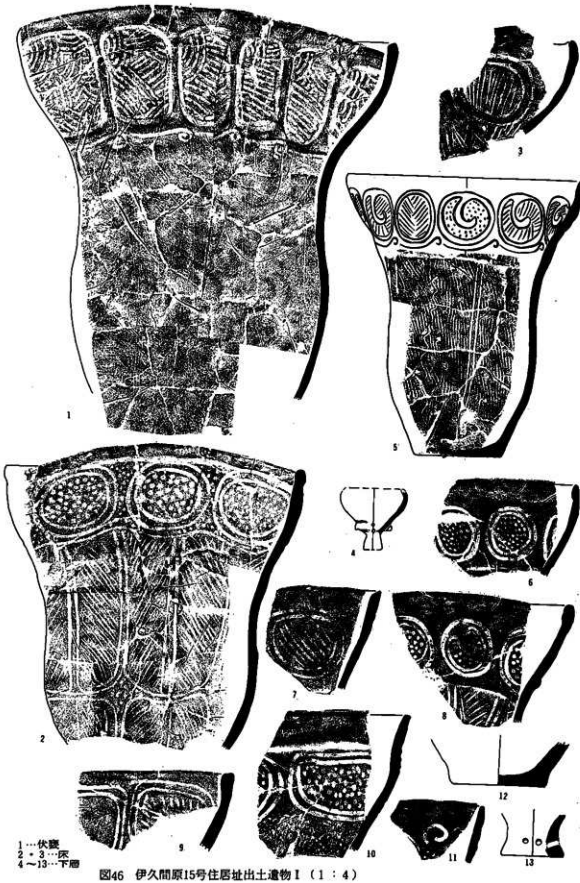


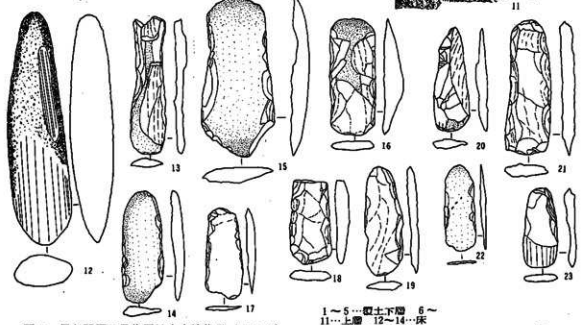
図45　伊久間原28号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）

土器21～23…覆土、石器　1～20…床　21～32…覆土



1…伏原
2・3…床
4～13…下層

図46　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）



1～5…覆土下層　6～
11…上層　12～14…床
15～23…下層

図47　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）

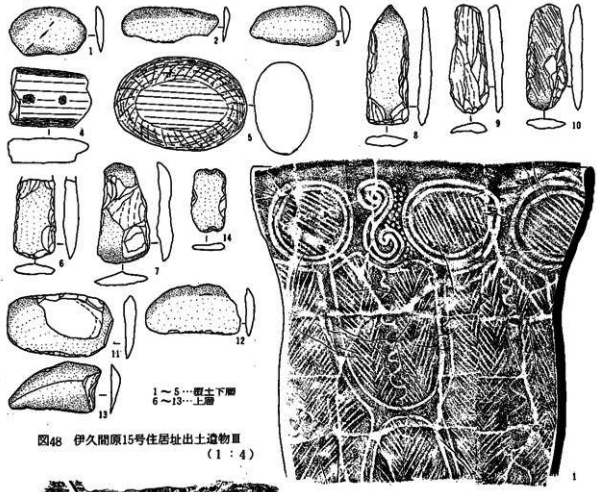


図48　伊久間原15号住居址出土遺物Ⅲ
（1：4）

図49　伊久間原14号住居址出土遺物　（1：4）……
2…埋甕　3・7…床　4…覆土上層　5・6…炉　3・8…上層

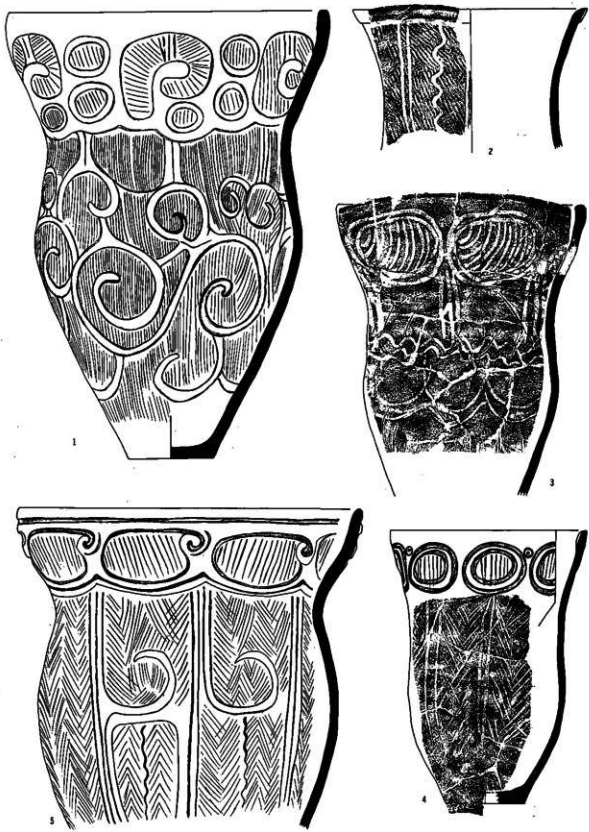
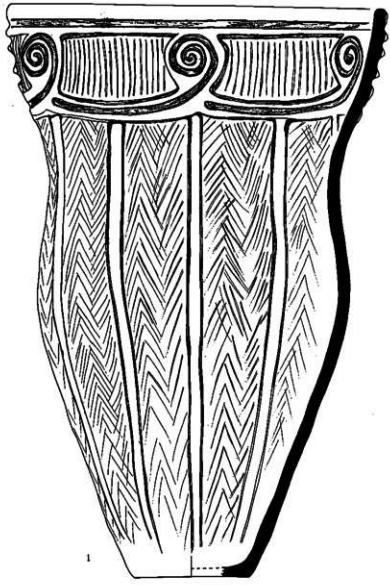
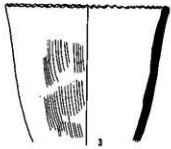
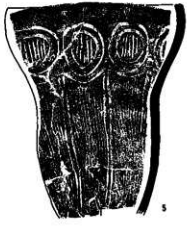


図50　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）

1～4…炉周辺　5…東壁







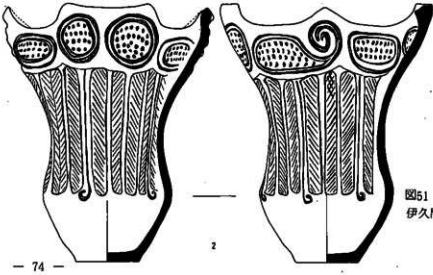
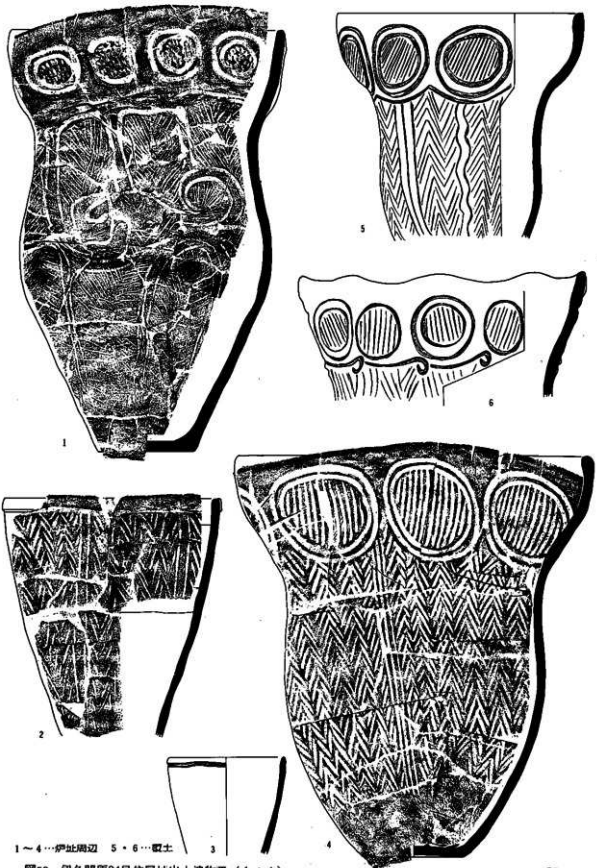


図51
伊久間原24号住居址出土遺物Ⅱ
（1：4）

51　1～6…炉際辺



1～4…炉址周辺　5・6…覆土

図52　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）……

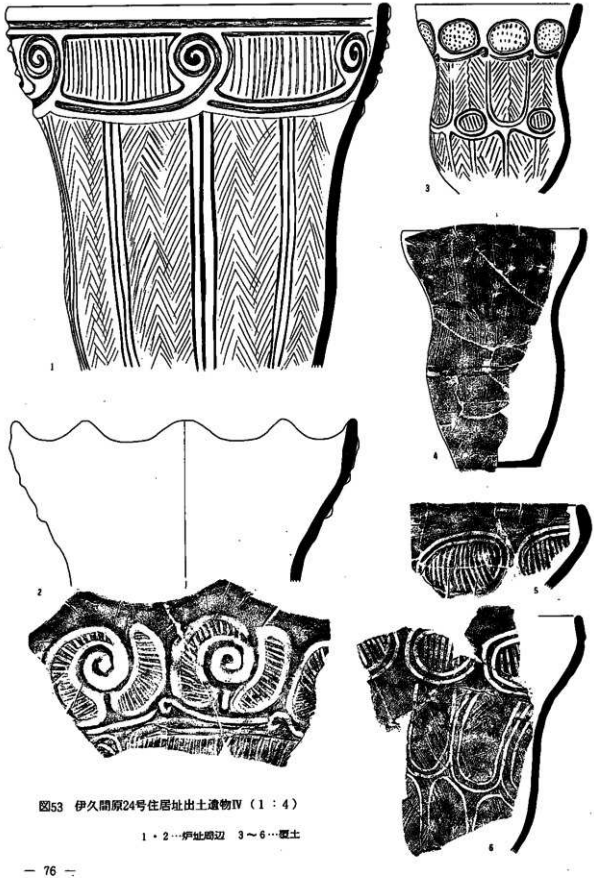


図53　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅳ（1：4）

1・2…炉址周辺　3～6…覆土

図54
伊久間原24号住居址出土遺物V
（1：4）

1～11…覆土　12～16…炉址
周辺、床直上

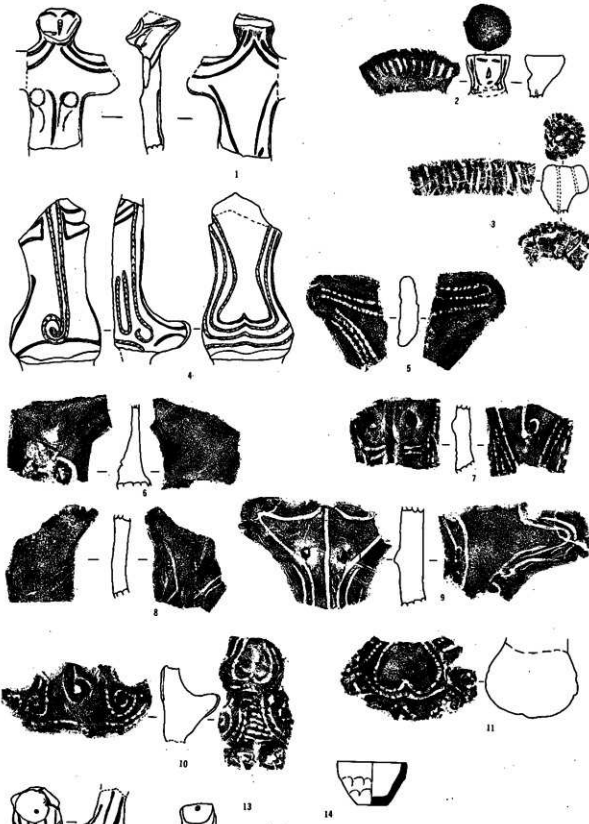


図55　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅵ（1：3）

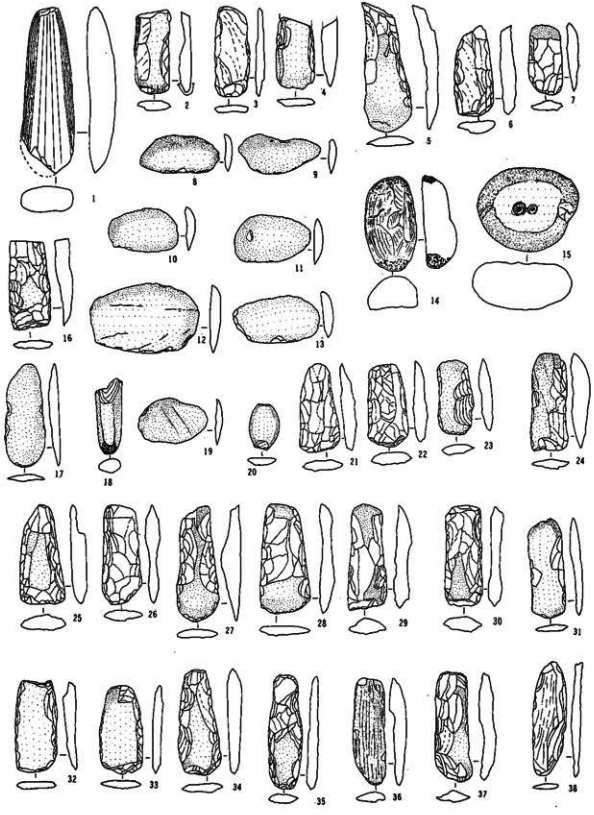


図56　伊久間原24号住居址出土遺物Ⅷ（１：４）

１～15…床　16～20…西壁下層　21～38…覆土

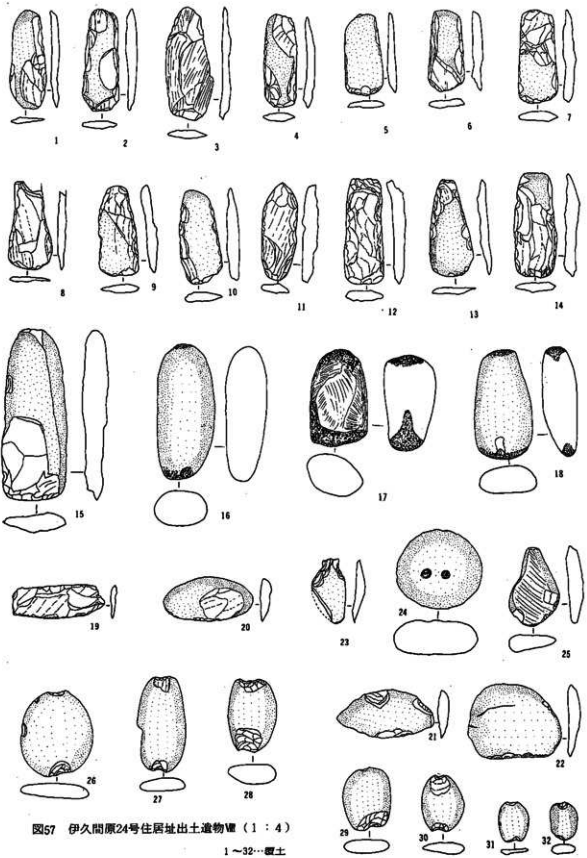


図57　伊久間原24号住居址出土遺物(1：4)

1～32…覆土

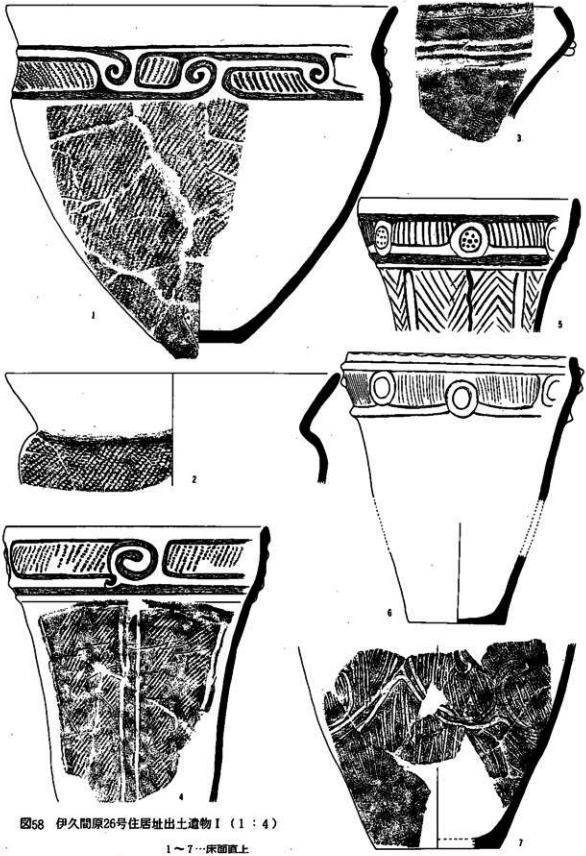


図58　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）

1～7…床面直上

図59　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）

1～6…床　7～12…炉址　13～26…覆土
下層　27～38…覆土上層

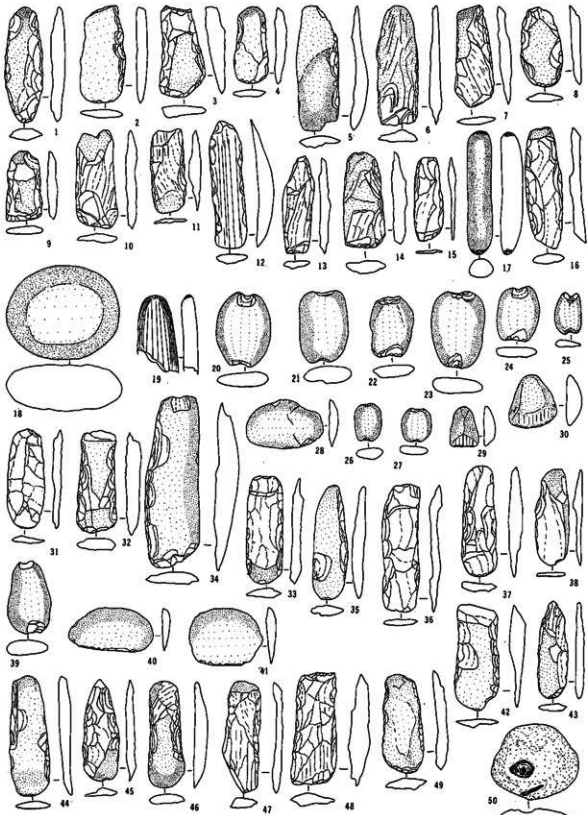


図60　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅲ（1：4）

1～30…床　31～41…床面直上
42～50…貼土下層

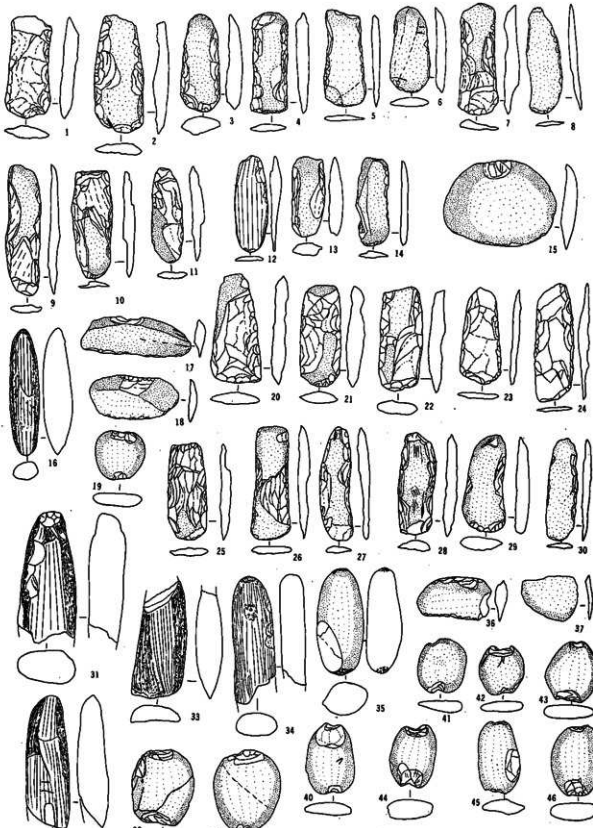


図61　伊久間原26号住居址出土遺物Ⅳ（1：4）

1～19…覆土下層　20～46…覆土上層

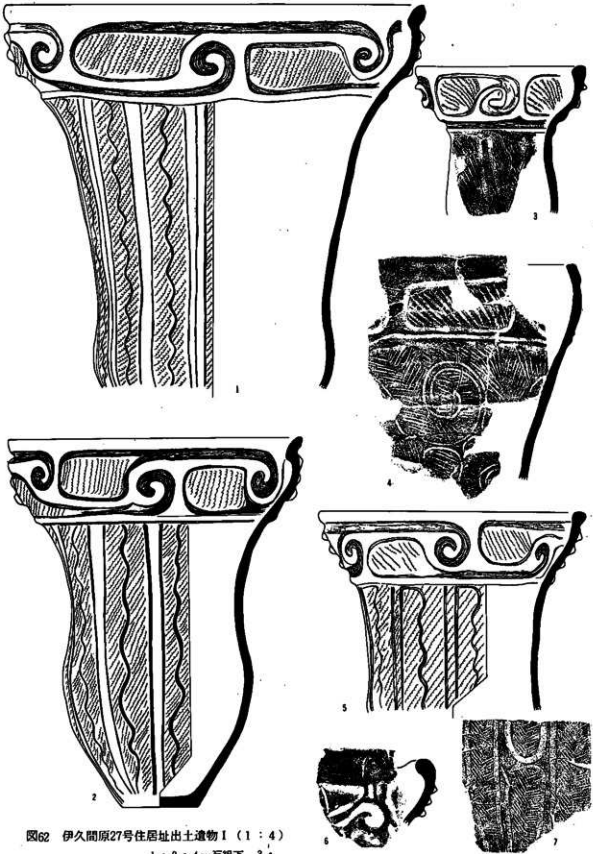


図62　伊久間原27号住居址出土遺物Ⅰ（1：4）

1・2・4…石組下　3・6…竪土下層　5…床　7…炉址

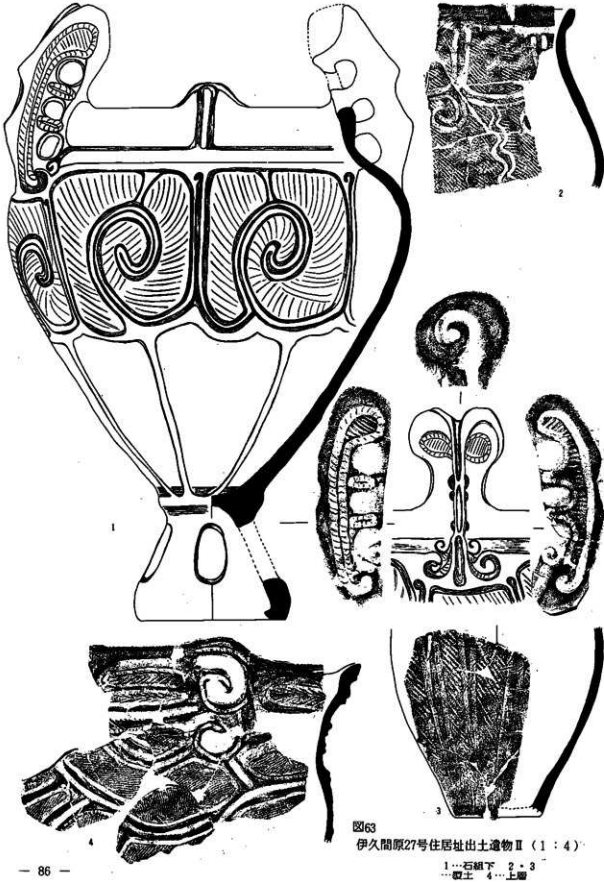


図63
伊久間原27号住居址出土遺物Ⅱ（1：4）
1…石組下　2・3…
…覆土　4…上層

図64　伊久間原25号住居址出土遺物　（1：4）　1～11…床　12～21…覆土下層　22～27…上層

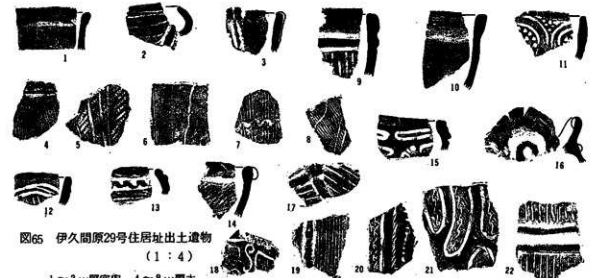


図65　伊久間原29号住居址出土遺物（1：4）

1～3…竪穴内　4～8…覆土下層　9～22…竪穴上層

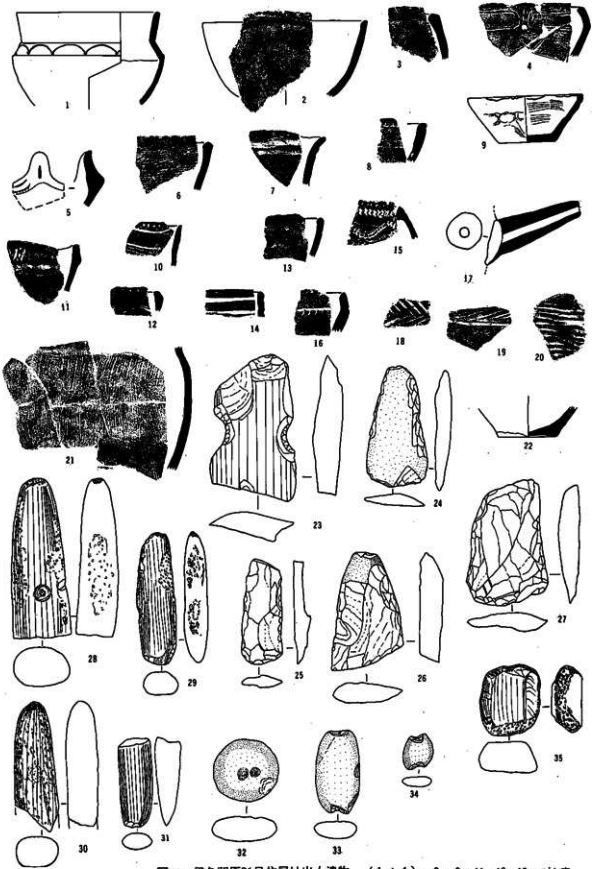


図66　伊久間原21号住居址出土遺物　（1：4）・2・9・11・12・15…pit内

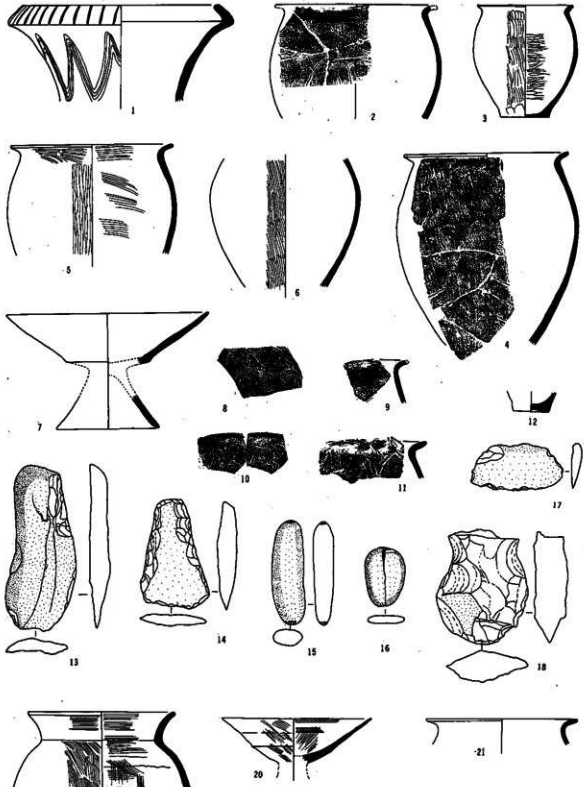


図67　伊久間原16号・17号住居址出土遺物（1：4）…

1～18…16号住居址（1～4・8・13・14、5・6炉跡　7・9～12覆土下層　15～18覆土上層）19～21…17号住居址（19…ピット内　20上層　21床）

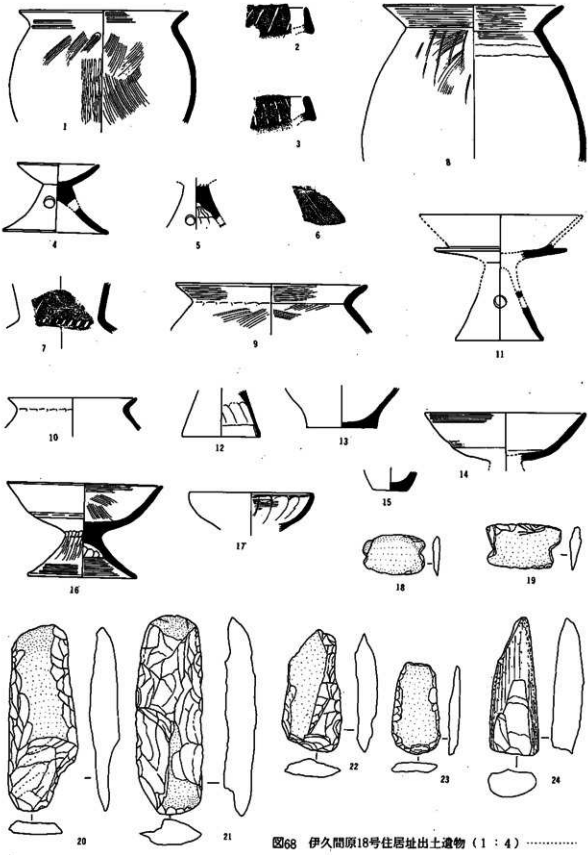


図68　伊久間原18号住居址出土遺物（1：4）……

土器 1…炉縁　2～7…床　8～15…覆土　16…東壁上
17…上層　石器18～22…床　23・24…上層

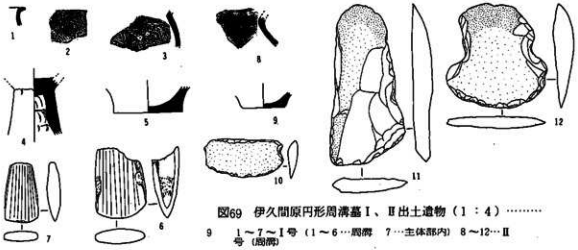


図69　伊久間原円形周溝墓Ⅰ、Ⅱ出土遺物（1：4）……
9　1～7～Ⅰ号（1～6…周溝　7…主体部内）　8～12…Ⅱ号（周溝）

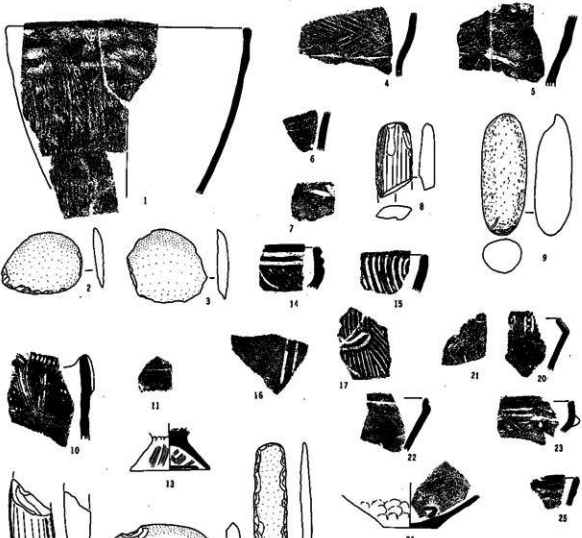


図70　伊久間原土壙1・3・4・7・11・12、22号住居址上層出土遺物（1：4）
1～3…土1　4～9…土3　10～12…土4
13…土7　14～19…土11　20・21…土12　22
22～25…22住上層

図71　伊久間原面出土土製品及び小型石器
（1：3）

1～3…23住　4～6・29～31・55
～58…28住　7～14…14住　15～20
…15住　21～28…24住　32～38…25住
住　39～42…26住　43～54…27住
59～61…21住

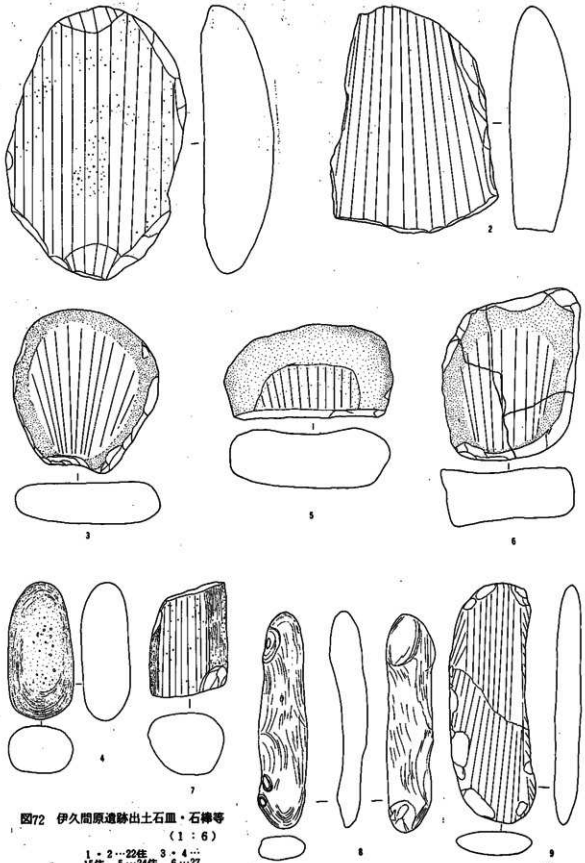


図72　伊久間原遺跡出土石皿・石棒等

（1：6）

1・2…22住　3・4…
15住　5…24住　6…27
住　7～9…26住

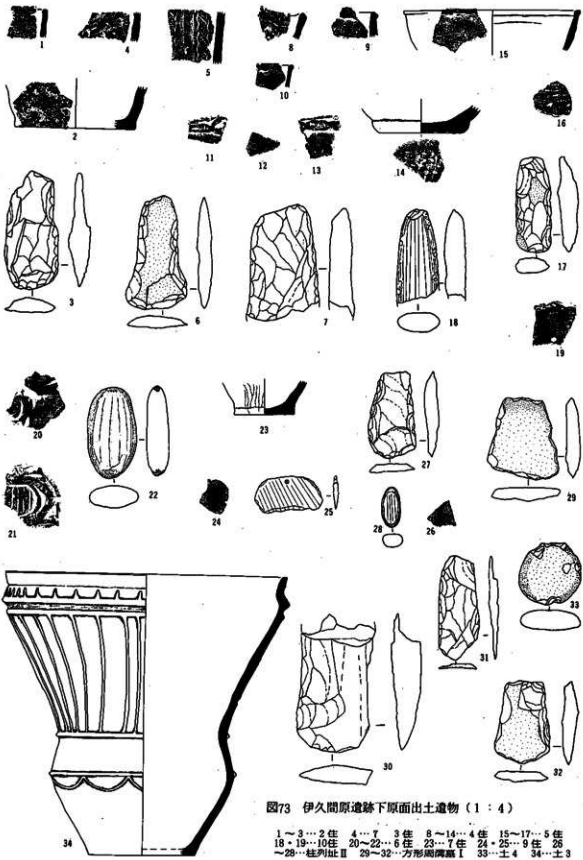


図73　伊久間原遺跡下原面出土遺物（1：4）

1～3…2住　4…7　3住　8～14…4住　15～17…5住
18・19…10住　20～22…6住　23…7住　24・25…9住　26
～28…柱列址Ⅱ　29～32…方形周溝墓Ⅰ　33…土4　34…土3

図版Ⅰ　遺　　跡

大原より伊久間原を望む—前方の段丘面

伊久間原Ⅰ調査区—前面は大原段丘崖

伊久間原—北東より見る

伊久間原下原面

伊久間原下原面—中央の空地が下原Ⅰ調査区

北を見る—右端は喬木第一小学校（塚牛原遺跡）

天竜川の対岸をみる—左より上郷町・飯田市座光寺

飯田市街地をみる—正面

飯田松川の天竜川への合流点

弁天橋・飯田市松尾地区

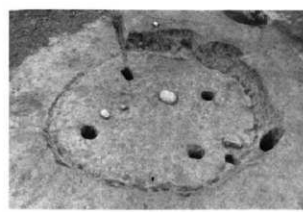
図版II　遺　　構

伊久間原Ⅰ調査区の遺構群—北から

伊久間原Ⅰ調査区の遺構群—南から

伊久間原Ⅱ調査区の遺構群—西から

伊久間原19号住居址



伊久間原22号住居址

伊久間原20号住居址

伊久間原20号住居址の炉址

伊久間原23号住居址一前（後右より24住, 25住・29住）

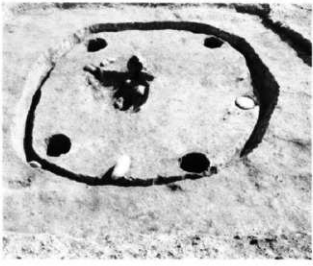
伊久間原23号住居址　炉址

伊久間原23号住居址　土偶頭部出土

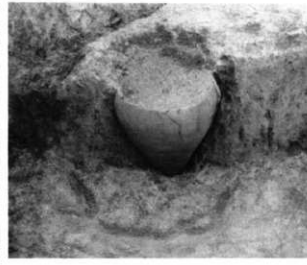
伊久間原28号住居址

伊久間原28号住居址　炉址

伊久間原28号住居址　深鉢出土



伊久間原14号住居址



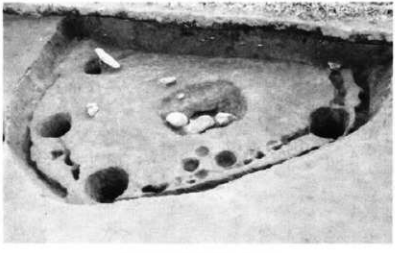
伊久間原14号住居址　埋甕

伊久間原15号住居址

伊久間原15号住居址　深鉢出土

伊久間原15号住居址　伏甕

伊久間原24号住居址　西より



伊久間原24号住居址　北より

伊久間原24号住居址　深鉢出土

伊久間原24号住居址　深鉢出土

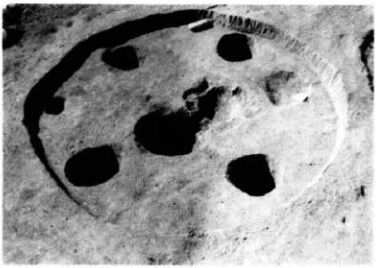
伊久間原24号住居址　土偶出土

伊久間原24号住居址　土偶出土

伊久間原24号住居址　小型深鉢出土

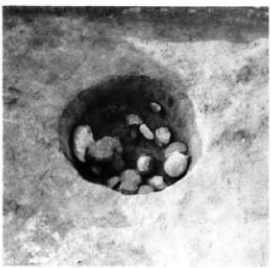
伊久間原26号住居址

伊久間26号住居址　鉢形土器出土



伊久間　伊久間原27号住居址

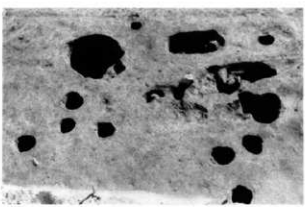
伊久間原27号住居址　異形石器・耳栓出土



伊久間原１号土坑

伊久間原住号住居址　上部集石

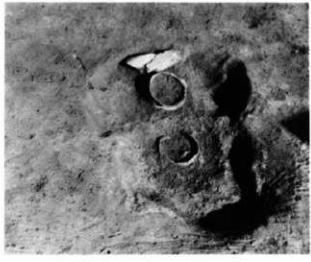
伊久間原21号住居址・土坑群　南から



伊久間原21号住居址・土坑群　西から

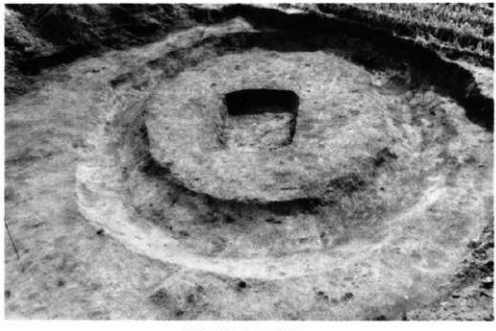
伊久間原16号・17号住居址（上が16住）

伊久間原16号住居址（南から）

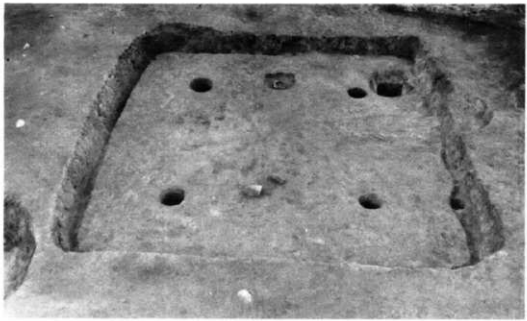


伊久間原16号住居址　埋甕炉

伊久間原16号住居址　炉甕



伊久間原円形周溝墓 I



伊久間原18号住居址

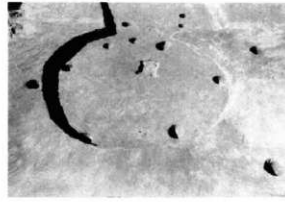
伊久間原18号住居址　高坏出土

伊久間原18号住居址　内集石

伊久間原18号住居址　埋甕炉

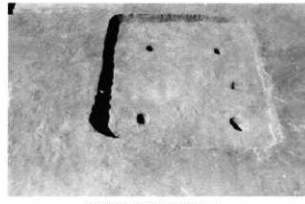
伊久間原18号住居址　炉甕

伊久間原下原Ⅰ調査区遺構全景　東から

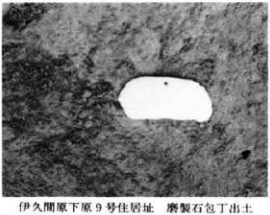


伊久間原下原６号住居址

伊久間原下原５号住居址



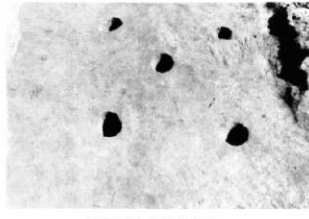
伊久間原下原７号住居址



伊久間原下原９号住居址　磨製石包丁出土

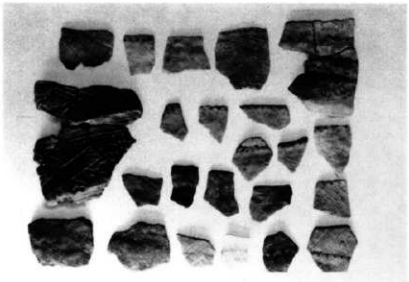
伊久間原下原方形周溝墓Ⅰ

伊久間原下原１号住居址　柱列址Ⅰ



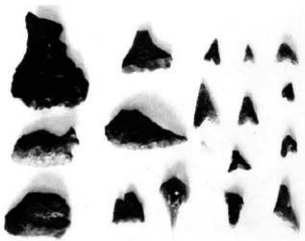
伊久間原下原柱列址Ⅱ

図版III　遺　　物



伊久間原19号住居址出土土器

伊久間原22号住居址出土尖底土器

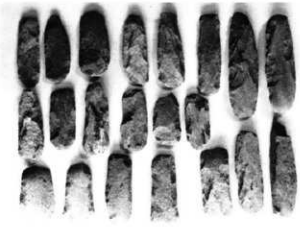


伊久間原22号住居址出土石器

伊久間原28号住居址出土深鉢

伊久間原20号住居址出土石器

伊久間原20号住居址出土石器



伊久間原23号住居址ピット内出土打石斧

伊久間原27号住居址出土深鉢

伊久間原24号住居址出土深鉢

伊久間原24号住居址出土深鉢

伊久間原24号住居址出土深鉢

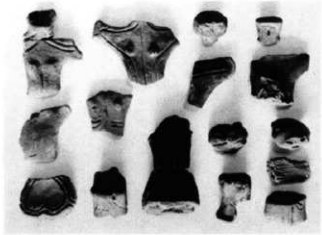
伊久間原24号住居址出土深鉢

伊久間原24号住居址出土深鉢

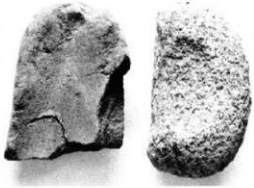
伊久間原24号住居址出土深鉢

伊久間原24号住居址出土釣手土器(右) 小形深鉢(左)

伊久間原24号住居址出土釣手土器



伊久間原24号(左11こ)・23号(右下3こ)
28号(右下2列2こ)住居址出土土偶

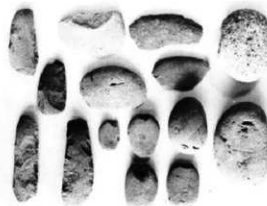


伊久間原24号住居址出土石皿(右)、
リンゴ畑出土石皿(左)

伊久間原26号住居址出土鉢

伊久間原26号住居址出土石棒と平石

伊久間原26号住居址出土石器1

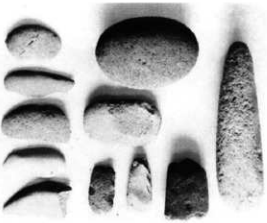


伊久間原26号住居址出土石器2

伊久間原15号住居址伏甕

伊久間原15号住居址出土石皿・石棒

伊久間原15号住居址出土石器1



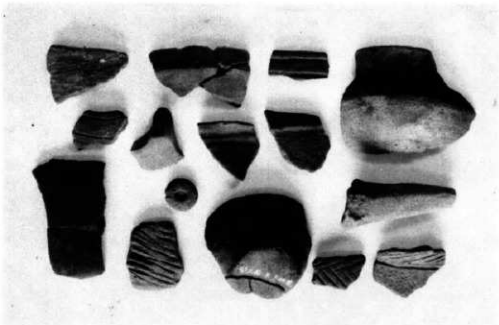
伊久間原15号住居址出土石器2

伊久間原14号住居址埋甕

伊久間原14号住居址出土深鉢

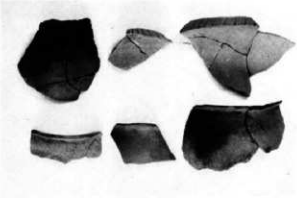
伊久間原14号住居址出土石皿

伊久間原14号住居址出土石器



伊久間原21号住居址出土土器

伊久間原21号住居址出土石器



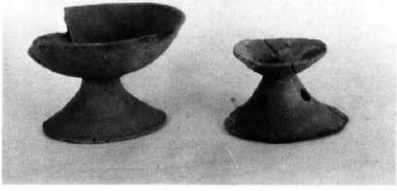
伊久間原16号住居址出土土器

伊久間原16号住居址炉裏

伊久間原16号住居址出土石器

伊久間原18号住居址出土土器

伊久間原18号住居址炉縁



伊久間原18号住居址出土高坏

伊久間原18号住居址出土石器

伊久間原17号住居址上層出土土器

図版Ⅳ　発掘スナップ

伊久間原下原Ⅰ調査区に調査をはじめる

伊久間原下原Ⅰ調査区に調査をすすめる

伊久間原下原Ⅰ調査区の調査をすすめる

伊久間原Ⅰ調査区の調査にかかる

伊久間原Ⅱ調査区の調査をすすめる

伊久間原25号住居址の調査

お　わ　り　に

農地の基盤整備、団地化等農業の近代化を図り、農業振興を目的とした農業構造改善事業が実施された伊久間原において、昭和53年度県営の小渋川畑地帯総合整備事業が実施されることになりました。

この事業は小渋川より取水した竜東一貫水路の水を畑地帯に灌漑撒水し、良質多量の農業生産を図ると共に農薬散布等も同時に出来る近代設備であります。

伊久間原は、堀垣外、蓋立、ホウゲン、館林、城の上、ハマイバ、下原等多数の埋蔵文化財包蔵地を有し、昭和28年第一次農業構造改善事業の実施に当っては堀垣外地籍で発掘調査を実施しました。

調査の結果は、縄文・弥生・土師・須恵の長い期間における多量の住居址・土器・石器等を発掘し、喬木村にとって貴重な古代の資料を得ることが出来、土師式竪穴住居址原型埋没保存及びかまど復元等の措置をすると共に、伊久間原古代住居址群として喬木村重要文化財に指定し保存して来ました。

昭和53年度畑地帯総合整備事業が実施され各圃場に撒布施設が施工されると将来調査が不能になることと遺跡が破壊される憂いがあるため、本年着工前に発掘調査を実施しました。調査地区を、下原２ケ所、堀垣外２ケ所、計４ケ所とし、面積 22.9 アールを調査費 600 万円を投じて調査いたしました。

調査費の75%を長野県南信土地改良事務所より委託金として受け残る25%を文化庁及び県の補助金と一般財源で補ないました。

調査は10月17日より本年２月18日迄の長期に亘り実施しました。

調査の結果は予想に違わず、縄文早期末、中期、後・晩期、弥生後期に亘っての住居址、土器、石器を始め多数の資料を得ることが出来、大きな成果を収めることが出来ました。

調査土地の提供については６人の所有者、耕作者が快く協力して頂き、調査が順調に進捗しました点をここに厚く御礼申し上げます。

調査作業については、調査団長佐藤甦信先生、調査員吉沢歸人先生を始め、作業員が堅い土質の所では汗を流す苦労をし、下原の軽い土質の所では強風の砂塵を浴び、時には寒風膚を刺し、時には雪をかき分け調査を進め、県考古学会会長大沢和夫先生、前飯田市教育長矢亀勝俊先生、県教育委員会文化課指導主事今村善興先生等の適切なるご指導により調査が極めて順調に出来ました。

特に出土品の整理、復元、報告書の作成については、終始熱心に当られた佐藤団長ご夫妻のご努力には頭の下る思いであり有難く厚く御礼を申し上げます。

出土品については関係各官庁に届出を終り、現在喬木村資料館（旧中央保育園）に保管中であるが、昭和53年度建設予定の喬木村歴史民俗資料館の完成をまって、ここに展示保管する予定であります。

大変お世話様になりましたことを重ねて御礼申し上げあとがきといたします。

昭和 53 年 3 月

喬木村教育委員会

伊　久　間　原

埋蔵文化財発掘調査報告書

－ 1978. 3 －

長野県南信土地改良事務所
長野県下伊那郡喬木村教育委員会

長野県飯田市通り町1－2
印刷　株式会社　秀　文　社